

評価実施 平成 29 年度		事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)																																																																																																																																																																																																																																																																							
事務事業名	No. 15	小・中学校学級運営事業								←実施計画上の重点項目 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください																																																																																																																																																																																																																																																															
政策名	No. 2	2 子育て・教育		所属部	教育委員会	所属課	教育指導支援課																																																																																																																																																																																																																																																																		
施策名	No. 5	基本施策5 学校教育の充実								所属係	指導支援係	課長名	三浦 利信																																																																																																																																																																																																																																																												
予算科目	会計 一般	款 11	項 0	目 0	事業コード 11461510	151600	法令根拠																																																																																																																																																																																																																																																																		
事業期間	単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)																																																																																																																																																																																																																																																																				
<b>事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)</b> この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか) 教育指導支援課が、小中学校において重点的に強化することを選定した事業に対し配当する予算の総体を一事業とした。(研究奨励校、小学校野外体験教室、進路指導、クラブ活動、校内研修会、吹奏楽器修繕、特別支援教育備品修繕など) 【事業概要】一人の一人の児童・生徒の資質・個性を伸長し、適性・能力を生かせるよう教職員が適切な指導を行うための研修または研究費用や、学校教育内容・設備等を充実させるための物品購入費用等、それぞれの目的に応じ、必要な予算を各小中学校に配当する事業 【予算内訳】報償費、需用費、役員費、使用料及び賃借料、備品																																																																																																																																																																																																																																																																									
<b>1 現状把握の部(PPLAN)(DO)</b> (1) 事務事業の目的と指標 ① 手段: 平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載) 主管課より、小・中学校11校に用途別に配当予算を配分した。 ① 手段: 平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動を具体的に記載) 平成28年度の執行状況及び成果により、平成29年度の配当を行う。 ② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 ③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 教育環境を充実させることにより、児童・生徒が学力・思考力を伸ばし、社会性を身に付けていく。教員が指導力を高める。 ④ 結果: 基本施策の目的や効果を高めるためのこの事業の貢献度 市立小中学校の児童生徒が、自ら学び自ら考える力をつけ、社会的な自立に向けて人格を形成する。																																																																																																																																																																																																																																																																									
<b>(2) 各指標等の推移</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>平成25年度(決算)</th> <th>平成26年度(決算)</th> <th>平成27年度(決算)(A)</th> <th>平成28年度(決算見込み)(B)</th> <th>平成29年度(当初予算)</th> <th>目標年度(目標値)</th> <th>差額(B)-(A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">① 手段</td> <td rowspan="2">活動指標(事務事業の活動量を表す指標)</td> <td>配当予算額</td> <td>千円</td> <td>6,613</td> <td>7,584</td> <td>7,384</td> <td>6,118</td> <td></td> <td>-1266</td> </tr> <tr> <td></td> <td>イ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">② 対象</td> <td rowspan="2">対象指標(対象の大きさを表す指標)</td> <td>市立小・中学校の児童・生徒数</td> <td>人</td> <td>4,611</td> <td>4,523</td> <td>4,468</td> <td>4,469</td> <td>4,444</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>市立小・中学校の教員数</td> <td>人</td> <td>250</td> <td>260</td> <td>268</td> <td>261</td> <td>265</td> <td>-7</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③ 意図</td> <td rowspan="2">成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)</td> <td>配当予算執行率</td> <td>%</td> <td>87</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>イ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">④ 結果</td> <td rowspan="2">上位成果指標(結果の達成度を表す指標)</td> <td>教育目標・方針に対する達成度</td> <td>%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>イ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>												項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)	① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	配当予算額	千円	6,613	7,584	7,384	6,118		-1266		イ						0	② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	市立小・中学校の児童・生徒数	人	4,611	4,523	4,468	4,469	4,444	1	市立小・中学校の教員数	人	250	260	268	261	265	-7	③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	配当予算執行率	%	87					0		イ						0	④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	教育目標・方針に対する達成度	%						0		イ						0																																																																																																																																																																												
項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)																																																																																																																																																																																																																																																																
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	配当予算額	千円	6,613	7,584	7,384	6,118		-1266																																																																																																																																																																																																																																																																
			イ						0																																																																																																																																																																																																																																																																
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	市立小・中学校の児童・生徒数	人	4,611	4,523	4,468	4,469	4,444	1																																																																																																																																																																																																																																																																
		市立小・中学校の教員数	人	250	260	268	261	265	-7																																																																																																																																																																																																																																																																
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	配当予算執行率	%	87					0																																																																																																																																																																																																																																																																
			イ						0																																																																																																																																																																																																																																																																
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	教育目標・方針に対する達成度	%						0																																																																																																																																																																																																																																																																
			イ						0																																																																																																																																																																																																																																																																
<b>(3) 事務事業コストの推移</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>平成25年度(決算)</th> <th>平成26年度(決算)</th> <th>平成27年度(決算)(A)</th> <th>平成28年度(決算見込み)(B)</th> <th>平成29年度(当初予算)</th> <th>目標年度(目標値)</th> <th>差額(B)-(A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="7">人に係るコスト</td> <td>正規職員従事人数</td> <td>人</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>正規職員人件費計(C)</td> <td>千円</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>再任用職員従事人数</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>再任用職員人件費計(D)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>嘱託職員従事人数</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">物に係るコスト</td> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>嘱託職員人件費計(E)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人に係るコスト計(F)</td> <td>千円</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>物件費</td> <td>千円</td> <td>3,977</td> <td></td> <td>6,087</td> <td>4,430</td> <td></td> <td>-1,657</td> </tr> <tr> <td>うち委託料</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>維持補修費</td> <td>千円</td> <td>980</td> <td></td> <td></td> <td>554</td> <td></td> <td>554</td> </tr> <tr> <td>物に係るコスト計(G)</td> <td>千円</td> <td>4,957</td> <td>0</td> <td>6,087</td> <td>4,984</td> <td>0</td> <td>-1,103</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">移転支的コスト</td> <td>扶助費</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>補助費等</td> <td>千円</td> <td>1,216</td> <td></td> <td>1,297</td> <td>1,134</td> <td></td> <td>-163</td> </tr> <tr> <td>繰入金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>移転支的コスト計(H)</td> <td>千円</td> <td>1,216</td> <td>0</td> <td>1,297</td> <td>1,134</td> <td>0</td> <td>-163</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>支出計(I)=(F)+(G)+(H)</td> <td>千円</td> <td>6,223</td> <td>50</td> <td>7,434</td> <td>6,168</td> <td>0</td> <td>-1,266</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">収入内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>都支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>分担金及び負担金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>使用料及び手数料</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>繰入金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>収入計(J)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>収支差額(K)=(J)-(I)</td> <td>千円</td> <td>-6,223</td> <td>-50</td> <td>-7,434</td> <td>-6,168</td> <td>0</td> <td>1,266</td> </tr> <tr> <td>一般財源投入割合</td> <td>%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>#DIV/0!</td> <td>#DIV/0!</td> </tr> </tbody> </table>												項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)	人に係るコスト	正規職員従事人数	人	1	1	1	1		0	延べ業務時間	時間	10	10	10	10		0	正規職員人件費計(C)	千円	50	50	50	50	0	0	再任用職員従事人数	人							延べ業務時間	時間						0	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0	嘱託職員従事人数	人							物に係るコスト	延べ業務時間	時間						0	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0	人に係るコスト計(F)	千円	50	50	50	50	0	0	物件費	千円	3,977		6,087	4,430		-1,657	うち委託料	千円						0	維持補修費	千円	980			554		554	物に係るコスト計(G)	千円	4,957	0	6,087	4,984	0	-1,103	移転支的コスト	扶助費	千円						0	補助費等	千円	1,216		1,297	1,134		-163	繰入金	千円						0	その他	千円						0	移転支的コスト計(H)	千円	1,216	0	1,297	1,134	0	-163	その他	千円							0	支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	6,223	50	7,434	6,168	0	-1,266	収入内訳	国庫支出金	千円						0	都支出金	千円						0	分担金及び負担金	千円						0	使用料及び手数料	千円						0	繰入金	千円						0	その他	千円						0	収入計(J)	千円	0	0	0	0	0	0	収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-6,223	-50	-7,434	-6,168	0	1,266	一般財源投入割合	%	100%	100%	100%	100%	#DIV/0!	#DIV/0!
項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)																																																																																																																																																																																																																																																																	
人に係るコスト	正規職員従事人数	人	1	1	1	1		0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	延べ業務時間	時間	10	10	10	10		0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	正規職員人件費計(C)	千円	50	50	50	50	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	再任用職員従事人数	人																																																																																																																																																																																																																																																																							
	延べ業務時間	時間						0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	嘱託職員従事人数	人																																																																																																																																																																																																																																																																							
物に係るコスト	延べ業務時間	時間						0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	人に係るコスト計(F)	千円	50	50	50	50	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	物件費	千円	3,977		6,087	4,430		-1,657																																																																																																																																																																																																																																																																	
うち委託料	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																		
維持補修費	千円	980			554		554																																																																																																																																																																																																																																																																		
物に係るコスト計(G)	千円	4,957	0	6,087	4,984	0	-1,103																																																																																																																																																																																																																																																																		
移転支的コスト	扶助費	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	補助費等	千円	1,216		1,297	1,134		-163																																																																																																																																																																																																																																																																	
	繰入金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	その他	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																	
移転支的コスト計(H)	千円	1,216	0	1,297	1,134	0	-163																																																																																																																																																																																																																																																																		
その他	千円							0																																																																																																																																																																																																																																																																	
支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	6,223	50	7,434	6,168	0	-1,266																																																																																																																																																																																																																																																																		
収入内訳	国庫支出金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	都支出金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	分担金及び負担金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	使用料及び手数料	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	繰入金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	その他	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	収入計(J)	千円	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																	
収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-6,223	-50	-7,434	-6,168	0	1,266																																																																																																																																																																																																																																																																		
一般財源投入割合	%	100%	100%	100%	100%	#DIV/0!	#DIV/0!																																																																																																																																																																																																																																																																		

2 評価の部(CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関与性評価	① 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 公教育制度下においては、適正な予算配当事業である。 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?																				
有効性評価	② 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 配当された予算を各校にて精査し、無駄なく有効に執行することに努めており、十分成果を挙げている現状である。 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?																				
	③ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 各々の教育的事業の目的に限定し予算措置を行うことは、有効性があり学校教育が向上する等の成果が期待できるため、継続するべきである。																				
効率性評価	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?見直しが可能な点として、教育指導支援課による配当形式以外の予算編成に変えることが挙げられるが、事業の目的・規模等は維持すべきである。																				
	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保余地	<input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 配当された予算を各校にて精査し、無駄なく有効に執行することに努め、十分成果を挙げている現状であり、事業費の削減は、学校教育の質の低下に繋がる。																				
公平性評価	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 主管課による配当形式以外の予算編成に変えることにより、主管課職員の人件費を削減できると考えられるが、学校から配当予算継続の要望もあり、人件費削減の観点からのみ事業を見直しすることはできない。																				
	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 公教育制度において、全ての児童・生徒及び教員に対し成果が期待できる、有効的かつ適正な事業である。																				
活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は? 本事業の有効性は十分であると判断する。																						
事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は? 学校配当予算と並行し、執行管理を学校及び主管課が行う必要があるため、効率性の点では後配以外の方法の検討を要する。																						
<b>3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)</b>																						
(1) 担当課評価者としての評価結果 ① 公共関与妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 各学校予算中に、教育総務課及び教育指導支援課による配当予算が混在しており、予算事務が煩雑となっている。																				
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 主管課による配当予算という形式以外の配分方法を検討する。		(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コスト</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>x</td> <td>x</td> </tr> </tbody> </table>		削減	維持	増加	コスト				向上	○			維持				低下		x	x
	削減	維持	増加																			
コスト																						
向上	○																					
維持																						
低下		x	x																			
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 配当予算の配分及び執行管理を学校のみならず、主管課も関与しつつ効率化する。																						
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?																						



評価実施 平成 29 年度	事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)									
事務事業名	No. 16	学校備品整備事業			←実施計画上の重点項目 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください					
政策名	No. 1	1ひとを育てる、守る			所属部	教育委員会	所属課	教育指導支援課		
施策名	No. 2	施策2 義務教育の充実			所属係	指導支援係	課長名	三浦 利信		
予算科目	会計 一般	款 11	項 0	目 01	事業コード 11451010	法令根拠				
事業期間	単年度のみ		単年度繰返		期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)					
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)					この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)					
(事業の内容) 従前の、国立市立学校が保有する備品の適切な管理事業に加え、平成23年度より新学習指導要領の実施に伴い、新しく導入された指導内容を実現するための備品を購入する事業と併せた。(業務内容) 必要な教材・備品の計画的な購入およびその保管・管理業務(予算内訳) 備品購入費、賃借料、委託料					従来からの業務					
					裁量性の小さい理由・根拠 事業類型を選択してください。					

1 現状把握の部(PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段: 平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載)  
市立学校における備品管理台帳の加除整理、学校図書館システム関係機器の賃貸借、教材提示装置(デジタルテレビ)、小学校校務管理ソフトウェアの保守委託

① 手段: 平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動を具体的に記載)  
市立学校における備品管理台帳の加除整理、小学校校務管理システム保守委託、学校図書館システム機器賃貸借、教科備品購入

② 対象(誰、何を対象にしているのか) \* 人や自然資源等  
市立小・中学校児童・生徒及び教員

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)  
児童・生徒への豊かな授業が展開できるよう教育環境の整備が図れる。

④ 結果: 基本施策の目的や効果を高めるためのこの事業の貢献度  
教育環境の整備が図られ、授業が豊かになる。

(2) 各指標等の推移

項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	購入教科備品数	ア	個					0
		備品管理カード数	イ	枚					0
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	登録・廃棄備品管理カード数	ア	枚					0
			イ						0
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	活用度	ア	%	100	100	100	100	0
			イ						0
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	教育目標・方針に対する達成度	ア	%					0
			イ						0

(3) 事務事業コストの推移

項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
支出内訳	正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3	0
	延べ業務時間	時間	120	120	120	120	120	0
	正規職員人件費計(C)	千円	600	600	600	600	600	0
	再任用職員従事人数	人						
	延べ業務時間	時間						0
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0
	嘱託職員従事人数	人	1	1	1	1	1	
	延べ業務時間	時間	250	250	250	250	250	0
	嘱託職員人件費計(E)	千円	375	375	375	375	375	0
	人に係るコスト計(F)	千円	975	975	975	975	975	0
物に係るコスト	物件費	千円	4,945	2,121	4,580	3,372	3,500	-1,208
	うち委託料	千円		518	519	1,486	1,582	967
	維持補修費	千円						0
	物に係るコスト計(G)	千円	4,945	2,121	4,580	3,372	3,500	-1,208
移転支的コスト	扶助費	千円						0
	補助費等	千円						0
	繰入金	千円						0
	その他	千円						0
	移転支的コスト計(H)	千円	0	0	0	0	0	0
その他	千円							0
	支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	5,920	3,096	5,555	4,347	4,475	-1,208
収入内訳	国庫支出金	千円						0
	都支出金	千円						0
	分担金及び負担金	千円						0
	使用料及び手数料	千円						0
	繰入金	千円						0
	その他	千円						0
	収入計(J)	千円	0	0	0	0	0	0
	収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-5,920	-3,096	-5,555	-4,347	-4,475	0
	一般財源投入割合	%	100%	100%	100%	100%	100%	#DIV/0!

2 評価の部(CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

① 公共関与の妥当性

見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映  
 妥当である ⇒【以下に理由を記入】  
 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?

② 成果の向上余地

向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映  
 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】  
 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?

③ 廃止・休止の成果への影響

影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映  
 影響有 ⇒【その内容】  
 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?)

④ 類似事業との統廃合・連携の可能性

他に手段がある (具体的な手段、事務事業)  
 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映  
 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】  
 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】  
 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はありますか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?

活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?

パソコン等機器類導入に際しては、賃貸借料(リース)契約が望ましい場合があるため、事業内容を備品購入に限らず今後見直す必要がある。

⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保余地

事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映  
 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】  
 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)  
 さらなる歳入を確保できないか?

⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地

削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映  
 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】  
 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)

⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地

見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映  
 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】  
 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?

事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?

特に課題はない。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)

(1) 担当課評価者としての評価結果

① 公共関与妥当性  適切  見直し余地あり  
 ② 有効性  適切  見直し余地あり  
 ③ 効率性  適切  見直し余地あり  
 ④ 公平性  適切  見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)  
 教材提示装置等、追加で購入する必要があるものは多々あるが、予算額の増加に頼るところが大きい。パソコン、サーバ等機器類に係る賃貸借、保守等のコストが後年費用として残るため、新規購入品のの予算を圧迫している。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載

事業のやり方改善(有効性改善)  事業のやり方改善(効率性改善)  事業のやり方改善(公平性改善)  
 事業統廃合・連携  縮小  休止  廃止  
 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

必要な教科備品・教材等を計画的に購入し、児童・生徒への豊かな授業が展開できるよう教育環境の整備を図っていく。  
 国の第2期教育振興計画で示されている水準に達するようにICT機器の整備を進める必要がある。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

	削減	維持	増加
向上			○
維持			×
低下	×		×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策

国の10ヶ年計画によると、教材整備のための地方財政措置が大幅に平成24年度以降増額されている。財務部局との協議により本事業に係る配当額の増額を強く要望する。

(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?



評価実施 平成 29 年度		事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)																																																																																																																																																																																																																																																							
事務事業名	No. 17	インクルーシブ教育推進事業								←実施計画上の重点項目 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください																																																																																																																																																																																																																																															
政策名	No. 2	2子育で・教育								所属部	教育委員会	所属課	教育指導支援課																																																																																																																																																																																																																																												
施策名	No. 5	基本施策5 学校教育の充実								所属係	指導支援係	課長名	三浦 利信																																																																																																																																																																																																																																												
予算科目	会計 一般	款 11	項 0	目 0	1	0	3	0	3	1	4	5	3	6	0	事業コード	法令根拠																																																																																																																																																																																																																																								
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)																																																																																																																																																																																																																																																								
<b>事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)</b> 文部科学省の指定を受け、子どもの個々の特性に応じた学びの場や、きめ細やかな教育支援体制を構築するインクルーシブ教育システム構築モデル事業を平成25年度から平成27年度まで3年間受託した。平成28年度からは、インクルーシブ教育推進事業として市が継続して事業を行い、特別支援教育の向上をはかる。																																																																																																																																																																																																																																																									
<b>この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)</b> 平成27年度までの文部科学省のインクルーシブ教育システム構築モデル事業が終了したので市のインクルーシブ教育推進事業として継続																																																																																																																																																																																																																																																									
<b>裁量性の小さい理由・根拠</b> 事業類型を選択してください。																																																																																																																																																																																																																																																									
<b>1 現状把握の部(PPLAN)(DO)</b> <b>(1) 事務事業の目的と指標</b> ① 手段: 平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載) モデル事業は3か年で終了したが、引き続き、これまでの成果を活かしつつ、指導員やスーパーバイザー等の人的措置を重点的に事業の向上を図った。 ① 手段: 平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動を具体的に記載) 昨年度同様の活動。 ② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 市立小・中学校児童・生徒及び教員 ③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) しょうがいのある子どもと通常学級の子どもが共に学べるよう配慮することができ、またそういう意識を持つようになる。 ④ 結果: 基本施策の目的や効果を高めるためのこの事業の貢献度 しょうがいいしが、年齢や能力に応じ、かつその特性を踏まえた教育が受けられるようになる。																																																																																																																																																																																																																																																									
<b>(2) 各指標等の推移</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>平成25年度(決算)</th> <th>平成26年度(決算)</th> <th>平成27年度(決算)(A)</th> <th>平成28年度(決算見込み)(B)</th> <th>平成29年度(当初予算)</th> <th>目標年度(目標値)</th> <th>差額(B)-(A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">① 手段</td> <td rowspan="2">活動指標(事務事業の活動量を表す指標)</td> <td>事業に係る経費</td> <td>千円</td> <td>11,431</td> <td>22,578</td> <td>18,145</td> <td>16,982</td> <td></td> <td>-1163</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">② 対象</td> <td rowspan="2">対象指標(対象の大きさを表す指標)</td> <td>市立小・中学校の児童・生徒数</td> <td>人</td> <td>4564</td> <td>4523</td> <td>4468</td> <td>4469</td> <td>4444</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>市立小・中学校の教員数</td> <td>人</td> <td>257</td> <td>260</td> <td>268</td> <td>261</td> <td>265</td> <td>-7</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③ 意図</td> <td rowspan="2">成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)</td> <td>配慮や意識が持てるようになった割合</td> <td>%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">④ 結果</td> <td rowspan="2">上位成果指標(結果の達成度を表す指標)</td> <td>本事業の目標・方針に対する達成度</td> <td>%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>																	項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)	① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	事業に係る経費	千円	11,431	22,578	18,145	16,982		-1163								0	② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	市立小・中学校の児童・生徒数	人	4564	4523	4468	4469	4444	1	市立小・中学校の教員数	人	257	260	268	261	265	-7	③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	配慮や意識が持てるようになった割合	%						0								0	④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	本事業の目標・方針に対する達成度	%						0								0																																																																																																																																																							
項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)																																																																																																																																																																																																																																																
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	事業に係る経費	千円	11,431	22,578	18,145	16,982		-1163																																																																																																																																																																																																																																																
									0																																																																																																																																																																																																																																																
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	市立小・中学校の児童・生徒数	人	4564	4523	4468	4469	4444	1																																																																																																																																																																																																																																																
		市立小・中学校の教員数	人	257	260	268	261	265	-7																																																																																																																																																																																																																																																
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	配慮や意識が持てるようになった割合	%						0																																																																																																																																																																																																																																																
									0																																																																																																																																																																																																																																																
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	本事業の目標・方針に対する達成度	%						0																																																																																																																																																																																																																																																
									0																																																																																																																																																																																																																																																
<b>(3) 事務事業コストの推移</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>平成25年度(決算)</th> <th>平成26年度(決算)</th> <th>平成27年度(決算)(A)</th> <th>平成28年度(決算見込み)(B)</th> <th>平成29年度(当初予算)</th> <th>目標年度(目標値)</th> <th>差額(B)-(A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">支出内訳</td> <td rowspan="5">人に係るコスト</td> <td>正規職員従事人数</td> <td>人</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>正規職員人件費計(C)</td> <td>千円</td> <td>250</td> <td>250</td> <td>250</td> <td>250</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>再任用職員従事人数</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">物に係るコスト</td> <td>再任用職員人件費計(D)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>嘱託職員従事人数</td> <td>人</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td>2,714</td> <td>8,481</td> <td>8,644</td> <td>7,426</td> <td>-1,218</td> </tr> <tr> <td>嘱託職員人件費計(E)</td> <td>千円</td> <td>4,071</td> <td>12,722</td> <td>12,966</td> <td>14,035</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人に係るコスト計(F)</td> <td>千円</td> <td>4,321</td> <td>12,972</td> <td>13,216</td> <td>14,285</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">移転支的コスト</td> <td>物件費</td> <td>千円</td> <td>4,186</td> <td>1,847</td> <td>1,397</td> <td>483</td> <td>-914</td> </tr> <tr> <td>うち委託料</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>維持補修費</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>物に係るコスト計(G)</td> <td>千円</td> <td>4,186</td> <td>1,847</td> <td>1,397</td> <td>483</td> <td>-914</td> </tr> <tr> <td>扶助費</td> <td>千円</td> <td></td> <td>1,847</td> <td>1,311</td> <td></td> <td>-1,311</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">その他</td> <td>補助費等</td> <td>千円</td> <td>2,115</td> <td>6,885</td> <td>7,260</td> <td>2,464</td> <td>-4,796</td> </tr> <tr> <td>繰入金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>移転支的コスト計(H)</td> <td>千円</td> <td>2,115</td> <td>8,732</td> <td>8,571</td> <td>2,464</td> <td>0</td> <td>-6,107</td> </tr> <tr> <td>支出計(I)=(F)+(G)+(H)</td> <td>千円</td> <td>10,622</td> <td>23,551</td> <td>23,184</td> <td>17,232</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-5,952</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">収入内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td>千円</td> <td>11,431</td> <td>21,445</td> <td>21,537</td> <td></td> <td></td> <td>-21,537</td> </tr> <tr> <td>都支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>分担金及び負担金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>使用料及び手数料</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>繰入金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>収入計(J)</td> <td>千円</td> <td>11,431</td> <td>21,445</td> <td>21,537</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-21,537</td> </tr> <tr> <td>収支差額(K)=(J)-(I)</td> <td>千円</td> <td>809</td> <td>-2,106</td> <td>-1,647</td> <td>-17,232</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-15,585</td> </tr> <tr> <td>一般財源投入割合</td> <td>%</td> <td>-8%</td> <td>9%</td> <td>7%</td> <td>100%</td> <td>#DIV/0!</td> <td>#DIV/0!</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>																	項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)	支出内訳	人に係るコスト	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	0	延べ業務時間	時間	50	50	50	50	0	正規職員人件費計(C)	千円	250	250	250	250	0	再任用職員従事人数	人						延べ業務時間	時間					0	物に係るコスト	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	嘱託職員従事人数	人	5	6	5	7		延べ業務時間	時間	2,714	8,481	8,644	7,426	-1,218	嘱託職員人件費計(E)	千円	4,071	12,722	12,966	14,035	0	人に係るコスト計(F)	千円	4,321	12,972	13,216	14,285	0	移転支的コスト	物件費	千円	4,186	1,847	1,397	483	-914	うち委託料	千円					0	維持補修費	千円					0	物に係るコスト計(G)	千円	4,186	1,847	1,397	483	-914	扶助費	千円		1,847	1,311		-1,311	その他	補助費等	千円	2,115	6,885	7,260	2,464	-4,796	繰入金	千円					0	その他	千円					0	移転支的コスト計(H)	千円	2,115	8,732	8,571	2,464	0	-6,107	支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	10,622	23,551	23,184	17,232	0	0	-5,952	収入内訳	国庫支出金	千円	11,431	21,445	21,537			-21,537	都支出金	千円						0	分担金及び負担金	千円						0	使用料及び手数料	千円						0	繰入金	千円						0	その他	千円						0	収入計(J)	千円	11,431	21,445	21,537	0	0	0	-21,537	収支差額(K)=(J)-(I)	千円	809	-2,106	-1,647	-17,232	0	0	-15,585	一般財源投入割合	%	-8%	9%	7%	100%	#DIV/0!	#DIV/0!	
項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)																																																																																																																																																																																																																																																	
支出内訳	人に係るコスト	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	0																																																																																																																																																																																																																																																	
		延べ業務時間	時間	50	50	50	50	0																																																																																																																																																																																																																																																	
		正規職員人件費計(C)	千円	250	250	250	250	0																																																																																																																																																																																																																																																	
		再任用職員従事人数	人																																																																																																																																																																																																																																																						
		延べ業務時間	時間					0																																																																																																																																																																																																																																																	
	物に係るコスト	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																	
		嘱託職員従事人数	人	5	6	5	7																																																																																																																																																																																																																																																		
		延べ業務時間	時間	2,714	8,481	8,644	7,426	-1,218																																																																																																																																																																																																																																																	
		嘱託職員人件費計(E)	千円	4,071	12,722	12,966	14,035	0																																																																																																																																																																																																																																																	
		人に係るコスト計(F)	千円	4,321	12,972	13,216	14,285	0																																																																																																																																																																																																																																																	
移転支的コスト	物件費	千円	4,186	1,847	1,397	483	-914																																																																																																																																																																																																																																																		
	うち委託料	千円					0																																																																																																																																																																																																																																																		
	維持補修費	千円					0																																																																																																																																																																																																																																																		
	物に係るコスト計(G)	千円	4,186	1,847	1,397	483	-914																																																																																																																																																																																																																																																		
	扶助費	千円		1,847	1,311		-1,311																																																																																																																																																																																																																																																		
その他	補助費等	千円	2,115	6,885	7,260	2,464	-4,796																																																																																																																																																																																																																																																		
	繰入金	千円					0																																																																																																																																																																																																																																																		
	その他	千円					0																																																																																																																																																																																																																																																		
移転支的コスト計(H)	千円	2,115	8,732	8,571	2,464	0	-6,107																																																																																																																																																																																																																																																		
支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	10,622	23,551	23,184	17,232	0	0	-5,952																																																																																																																																																																																																																																																	
収入内訳	国庫支出金	千円	11,431	21,445	21,537			-21,537																																																																																																																																																																																																																																																	
	都支出金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																	
	分担金及び負担金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																	
	使用料及び手数料	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																	
	繰入金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																	
	その他	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																	
	収入計(J)	千円	11,431	21,445	21,537	0	0	0	-21,537																																																																																																																																																																																																																																																
収支差額(K)=(J)-(I)	千円	809	-2,106	-1,647	-17,232	0	0	-15,585																																																																																																																																																																																																																																																	
一般財源投入割合	%	-8%	9%	7%	100%	#DIV/0!	#DIV/0!																																																																																																																																																																																																																																																		

2 評価の部(CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関与性評価	① 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか？税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か？かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か？																				
有効性評価	② 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？																				
	③ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか？)																				
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？																				
<b>活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は？</b> 本事業は、本市における重要施策の一つとして位置付けられており、特に課題はない。																						
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保余地	<input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)																				
公平性評価	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)																				
	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？																				
<b>事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は？</b>																						
<b>3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)</b>																						
(1) 担当課評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																				
① 公共関与と妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																						
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 事業の必要性から新たな取り組みや見直しは必要である。		(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コスト</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td></td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>		削減	維持	増加	コスト			○	向上			○	維持			×	低下	×		×
	削減	維持	増加																			
コスト			○																			
向上			○																			
維持			×																			
低下	×		×																			
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策																						
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか？東京都からの教員配置が十分に措置された場合。																						



評価実施 平成 29 年度	事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)										
事務事業名	No. 18	子どもの体力・運動能力向上事業			←実施計画上の重点項目 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください						
政策名	No. 2	2子育て・教育			所属部	教育委員会	所属課	教育指導支援課			
施策名	No. 5	基本施策5 学校教育の充実			所属係	指導支援係	課長名	三浦 利信			
予算科目	会計 一般	款 1	項 0	目 1	事業コード 013	法令根拠					
事業期間	単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		期間限定複数年度 (平成25年度 ~ 年度)						
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)											この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)
【事業内容】多摩・島しょスポーツ習慣定着促進事業助成金を活用し、市立小・中学校の児童・生徒の体力向上を図るための支援事業である。 【事務内容】専門用具の購入、講師謝礼支払いなど。 【予算内訳】報償費(謝礼)、需用費(消耗品費)、備品購入費(管理及び教科備品)					平成25年度より多摩・島しょスポーツ習慣定着促進事業助成金を活用し、市立小・中学校の児童・生徒の体力向上を目的として行っている。 (※平成26年度は実施なし)						
裁量性の小さい理由・根拠											事業類型を選択してください。

1 現状把握の部(PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段: 平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載)  
市立小学校8校に、市内にある東京女子体育大学の学生を中心とした「運動の楽しさ伝え隊」を派遣し、体育の授業の補助員として運動の苦手な児童への支援を行った。また、運動が苦手な児童でも抵抗なく運動に取り組むことが出来るような専門用具を購入した。

① 手段: 平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動を具体的に記載)  
平成28年度と同様

② 対象(誰、何を対象にしているのか) \* 人や自然資源等  
市立小学校の児童及び教員

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか  
専門用具を活用することにより、児童の体力向上を図る。  
また、体育大学の学生が運動に対して消極的な児童への支援を行い、生涯にわたって運動を楽しむ資質や能力を身に付けられるようにする。

④ 結果: 基本施策の目的や効果を高めるためのこの事業の貢献度  
市立小学校の児童が自ら学び自ら考える力を身に付け、社会的な自立に向けて人格を形成する。

(2) 各指標等の推移

項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	ア							0
		イ							0
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	市立小・中学校 児童・生徒数	ア	4564		4468	4469	4442	1
		運動が嫌いな小学生(国立市独自調査)	イ			6.9	6.8		-0.1
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	東京都統一体力テスト 都平均との差(小)	ア	0.4	0.1	0	0.9		0.9
		東京都統一体力テスト 都平均との差(中)	イ	1.7	2.1	2.9	1		-1.9
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	ア							0
		イ							0

(3) 事務事業コストの推移

項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
支出内訳	正規職員従事人数	人	1		1	1	1	
	延べ業務時間	時間	15		15	15	15	0
	正規職員人件費計(C)	千円	75	0	75	75	75	0
	再任用職員従事人数	人						
	延べ業務時間	時間						0
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0
	嘱託職員従事人数	人	1		1	1	1	
	延べ業務時間	時間	5		5	5	5	0
	嘱託職員人件費計(E)	千円	8	0	8	8	8	0
	人に係るコスト計(F)	千円	83	0	83	83	83	0
物に係るコスト	物件費	千円	919		468	422	560	-46
	うち委託料	千円						0
	維持補修費	千円						0
物に係るコスト計(G)	千円	919	0	468	422	560	-46	
移転支的コスト	扶助費	千円						0
	補助費等	千円	808		584	593	936	9
	繰出金	千円						0
	その他	千円						0
移転支的コスト計(H)	千円	808	0	584	593	936	9	
その他	千円							0
支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	1,810	0	1,135	1,098	1,579	0	-37
収入内訳	国庫支出金	千円						0
	都支出金	千円	1,727		1,051	1,014	1,496	-37
	分担金及び負担金	千円						0
	使用料及び手数料	千円						0
	繰入金	千円						0
	その他	千円						0
収入計(J)	千円	1,727	0	1,051	1,014	1,496	0	-37
収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-83	0	-84	-84	-83	0	0
一般財源投入割合	%	5%	#DIV/0!	7%	8%	5%	#DIV/0!	

2 評価の部(CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

① 公共関与の妥当性

見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映  
 妥当である ⇒【以下に理由を記入】  
 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?

② 成果の向上余地

向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映  
 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】  
 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?

③ 廃止・休止の成果への影響

影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映  
 影響有 ⇒【その内容】  
 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?)

④ 類似事業との統廃合・連携の可能性

他に手段がある (具体的な手段、事務事業)  
 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映  
 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】  
 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】  
 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?

活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?

課題は特になし。

⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保余地

事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映  
 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】  
 必要最低限の経費のため、削減の余地はない。

⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地

削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映  
 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】  
 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)

⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地

見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映  
 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】  
 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?

事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?

課題は特になし。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)

(1) 担当課評価者としての評価結果

① 公共関与と妥当性  適切  見直し余地あり  
 ② 有効性  適切  見直し余地あり  
 ③ 効率性  適切  見直し余地あり  
 ④ 公平性  適切  見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)  
生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を全ての児童に身に付けさせるためには、運動に対して消極的な児童への支援は欠かせない。そのため、助成金終了後の対応が今後の課題となる。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載

事業のやり方改善(有効性改善)  事業のやり方改善(効率性改善)  事業のやり方改善(公平性改善)  
 事業統廃合・連携  縮小  休止  廃止  
 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)  
 多摩・島しょスポーツ習慣定着促進事業助成金を活用しているため、現状維持が望ましい。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

	削減	維持	増加
向上			
維持		○	×
低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を全ての児童に身に付けさせるためには、運動に対して消極的な児童への支援は欠かせない。そのため、助成金終了後の対応が今後の課題となる。

(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?  
多摩・島しょスポーツ習慣定着促進事業助成金を活用しているため、助成金がなくなれば廃止となる。



評価実施 平成 29 年度		事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)																																																																																																																																																																																																																																																																						
事務事業名	No. 19	学校教育向上支援事業								←実施計画上の重点項目 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください																																																																																																																																																																																																																																																														
政策名	No. 2	2子育で・教育								所属部	教育委員会	所属課	教育指導支援課																																																																																																																																																																																																																																																											
施策名	No. 5	基本施策5 学校教育の充実								所属係	指導支援係	課長名	三浦 利信																																																																																																																																																																																																																																																											
予算科目	会計 一般	1	0	0	1	0	3	0	1	4	5	3	7	0																																																																																																																																																																																																																																																										
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (平成26年度～ 年度)																																																																																																																																																																																																																																																																							
<b>事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)</b> 【事業内容】 <オリンピック・パラリンピック教育推進事業>国際社会に貢献し、東京、そして日本の更なる発展の担い手となる人材を育成していくとともに、東京2020大会の経験を通じ、その後の人生の糧となるような掛替えのないレガシーを児童・生徒の一人一人の心と体に残していく。 <道徳教育推進拠点校>小・中学校学習指導要領等の一部改正による「特別の教科 道徳」の実施に向けて、指導内容等の先行実施等を行う。 <情報モラル推進校>情報モラル、情報リテラシー教育の充実を図る。また、ICT機器を積極的に活用し、指導事例を作成するとともに、公開授業の実施等により、他校への普及・啓発を行う。 <安全教育推進校>学校の安全教育において、児童・生徒に危機を予測し回避する能力と、他社や社会の安全に貢献できる資質・能力を育成する。 <言語能力推進校>児童の思考力・判断力・表現力等を高めるため、理科・生活科の授業研究と言語能力向上のための環境整備及び専門家を招聘しての授業や研修を実施する。 <学校と家庭の連携推進>いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待などの生活指導上の課題に対して、地域全体で取り組む教育体制及び地域や学校の実態に即した効果的な取り組みの実現を図る。 <放課後学習支援教室>放課後に学習する機会を作り、国語と算数の2教科について子供の学習を支援する。 (※平成28年度より東京都学校支援ボランティア推進協議会事業費補助金を活用)																																																																																																																																																																																																																																																																								
<b>この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)</b> 放課後学習支援教室は、教育環境を充実させ、児童・生徒が学力・思考力を伸ばし、社会性を身に付けていることを目的とし、平成26年度より実施した。 また、東京都の補助金事業や委託金事業も積極的に活用している。																																																																																																																																																																																																																																																																								
<b>裁量性の小さい理由・根拠</b> 事業類型を選択してください。																																																																																																																																																																																																																																																																								
【予算内訳】報償費(謝礼)、需用費(消耗品費)、役員費(通信運搬費)、使用料及び賃借料(使用料)																																																																																																																																																																																																																																																																								
<b>1 現状把握の部(PLAN) (DO)</b> <b>(1) 事務事業の目的と指標</b> <b>① 手段:</b> 平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載) 放課後学習支援教室を全小学校に実施 その他は昨年度と同様 <b>① 手段:</b> 平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動を具体的に記載) 都補助金事業追加(追加) ・持続可能な社会づくりに向けた教育推進事業、・オリンピック・パラリンピック教育アワード、・パラリンピック競技応援校、・人権尊重教育推進校、・スーパーアクティブスクール <b>② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等</b> 市立小・中学校児童・生徒 <b>③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)</b> 教育環境を充実させることにより、児童・生徒が学力・思考力を伸ばし、社会性を身に付けていく。また、教員が指導力を高める良い機会となる。 <b>④ 結果:</b> 基本施策の目的や効果を高めるためのこの事業の貢献度 市立小・中学校の児童・生徒が、自ら学び自ら考える力をつけ、社会的な自立に向けて人格を形成する。																																																																																																																																																																																																																																																																								
<b>(2) 各指標等の推移</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>平成25年度(決算)</th> <th>平成26年度(決算)</th> <th>平成27年度(決算)(A)</th> <th>平成28年度(決算見込み)(B)</th> <th>平成29年度(当初予算)</th> <th>目標年度(目標値)</th> <th>差額(B)-(A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">① 手段</td> <td>活動指標(事務事業の活動量を表す指標)</td> <td>放課後学習支援教室参加人数</td> <td>人</td> <td></td> <td>171</td> <td>178</td> <td>254</td> <td></td> <td>76</td> </tr> <tr> <td></td> <td>放課後学習支援教室活動回数</td> <td>回</td> <td></td> <td>447</td> <td>676</td> <td>841</td> <td></td> <td>165</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">② 対象</td> <td>対象指標(対象の大きさを表す指標)</td> <td>市立小・中学校の児童・生徒数</td> <td>人</td> <td>4523</td> <td>4468</td> <td>4469</td> <td>4442</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>市立小・中学校の教員数</td> <td>人</td> <td>260</td> <td>258</td> <td>261</td> <td>264</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③ 意図</td> <td>成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)</td> <td>放課後学習支援教室アンケート結果(学習の面で成長できたか)</td> <td>%</td> <td>71.1</td> <td>84.5</td> <td>90.1</td> <td></td> <td></td> <td>5.6</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">④ 結果</td> <td>上位成果指標(結果の達成度を表す指標)</td> <td></td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>														項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)	① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	放課後学習支援教室参加人数	人		171	178	254		76		放課後学習支援教室活動回数	回		447	676	841		165	② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	市立小・中学校の児童・生徒数	人	4523	4468	4469	4442		1		市立小・中学校の教員数	人	260	258	261	264		3	③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	放課後学習支援教室アンケート結果(学習の面で成長できたか)	%	71.1	84.5	90.1			5.6			人						0	④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)		人						0			人						0																																																																																																																																																																					
項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)																																																																																																																																																																																																																																																															
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	放課後学習支援教室参加人数	人		171	178	254		76																																																																																																																																																																																																																																																															
		放課後学習支援教室活動回数	回		447	676	841		165																																																																																																																																																																																																																																																															
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	市立小・中学校の児童・生徒数	人	4523	4468	4469	4442		1																																																																																																																																																																																																																																																															
		市立小・中学校の教員数	人	260	258	261	264		3																																																																																																																																																																																																																																																															
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	放課後学習支援教室アンケート結果(学習の面で成長できたか)	%	71.1	84.5	90.1			5.6																																																																																																																																																																																																																																																															
			人						0																																																																																																																																																																																																																																																															
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)		人						0																																																																																																																																																																																																																																																															
			人						0																																																																																																																																																																																																																																																															
<b>(3) 事務事業コストの推移</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>平成25年度(決算)</th> <th>平成26年度(決算)</th> <th>平成27年度(決算)(A)</th> <th>平成28年度(決算見込み)(B)</th> <th>平成29年度(当初予算)</th> <th>目標年度(目標値)</th> <th>差額(B)-(A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">支出内訳</td> <td>正規職員従事人数</td> <td>人</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td>100</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>正規職員人件費計(C)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>500</td> <td>250</td> <td>250</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>再任用職員従事人数</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>再任用職員人件費計(D)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>嘱託職員従事人数</td> <td>人</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td>50</td> <td>80</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>嘱託職員人件費計(E)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>75</td> <td>120</td> <td>150</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>人に係るコスト計(F)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>575</td> <td>370</td> <td>400</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">物に係るコスト</td> <td>物件費</td> <td>千円</td> <td></td> <td>2,273</td> <td>2,271</td> <td>3,243</td> <td>288</td> <td>972</td> </tr> <tr> <td>うち委託料</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>維持補修費</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">物に係るコスト計(G)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>2,273</td> <td>2,271</td> <td>3,243</td> <td>288</td> <td>972</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">移転支的コスト</td> <td>扶助費</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>補助費等</td> <td>千円</td> <td></td> <td>7,218</td> <td>8,926</td> <td>11,802</td> <td>13,536</td> <td>2,876</td> </tr> <tr> <td>繰出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">移転支的コスト計(H)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>7,218</td> <td>8,926</td> <td>11,802</td> <td>13,536</td> <td>2,876</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">支出計(I)=(F)+(G)+(H)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>10,066</td> <td>11,567</td> <td>15,445</td> <td>14,224</td> <td>3,878</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">収入内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>都支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td>3,426</td> <td>2,663</td> <td>11,220</td> <td>9,216</td> <td>8,557</td> </tr> <tr> <td>分担金及び負担金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>使用料及び手数料</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>繰入金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">収入計(J)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>3,426</td> <td>2,663</td> <td>11,220</td> <td>9,216</td> <td>8,557</td> </tr> <tr> <td colspan="2">収支差額(K)=(J)-(I)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>-6,640</td> <td>-8,904</td> <td>-4,225</td> <td>-5,008</td> <td>4,679</td> </tr> <tr> <td colspan="2">一般財源投入割合</td> <td>%</td> <td>#DIV/0!</td> <td>66%</td> <td>77%</td> <td>27%</td> <td>35%</td> <td>#DIV/0!</td> </tr> </tbody> </table>														項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)	支出内訳	正規職員従事人数	人	1	1	1	1			延べ業務時間	時間	100	50	50	50	0	正規職員人件費計(C)	千円	0	500	250	250	0	再任用職員従事人数	人						延べ業務時間	時間					0	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	嘱託職員従事人数	人	1	1	1	1		延べ業務時間	時間	50	80	100	100	20	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	75	120	150	30	人に係るコスト計(F)	千円	0	575	370	400	30	物に係るコスト	物件費	千円		2,273	2,271	3,243	288	972	うち委託料	千円						0	維持補修費	千円						0	物に係るコスト計(G)		千円	0	2,273	2,271	3,243	288	972	移転支的コスト	扶助費	千円						0	補助費等	千円		7,218	8,926	11,802	13,536	2,876	繰出金	千円						0	その他	千円						0	移転支的コスト計(H)		千円	0	7,218	8,926	11,802	13,536	2,876	その他	千円							0	支出計(I)=(F)+(G)+(H)		千円	0	10,066	11,567	15,445	14,224	3,878	収入内訳	国庫支出金	千円						0	都支出金	千円		3,426	2,663	11,220	9,216	8,557	分担金及び負担金	千円						0	使用料及び手数料	千円						0	繰入金	千円						0	その他	千円						0	収入計(J)		千円	0	3,426	2,663	11,220	9,216	8,557	収支差額(K)=(J)-(I)		千円	0	-6,640	-8,904	-4,225	-5,008	4,679	一般財源投入割合		%	#DIV/0!	66%	77%	27%	35%	#DIV/0!
項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)																																																																																																																																																																																																																																																																
支出内訳	正規職員従事人数	人	1	1	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																		
	延べ業務時間	時間	100	50	50	50	0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	正規職員人件費計(C)	千円	0	500	250	250	0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	再任用職員従事人数	人																																																																																																																																																																																																																																																																						
	延べ業務時間	時間					0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																	
	嘱託職員従事人数	人	1	1	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																		
	延べ業務時間	時間	50	80	100	100	20																																																																																																																																																																																																																																																																	
	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	75	120	150	30																																																																																																																																																																																																																																																																	
	人に係るコスト計(F)	千円	0	575	370	400	30																																																																																																																																																																																																																																																																	
物に係るコスト	物件費	千円		2,273	2,271	3,243	288	972																																																																																																																																																																																																																																																																
	うち委託料	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																
	維持補修費	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																
物に係るコスト計(G)		千円	0	2,273	2,271	3,243	288	972																																																																																																																																																																																																																																																																
移転支的コスト	扶助費	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																
	補助費等	千円		7,218	8,926	11,802	13,536	2,876																																																																																																																																																																																																																																																																
	繰出金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																
	その他	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																
移転支的コスト計(H)		千円	0	7,218	8,926	11,802	13,536	2,876																																																																																																																																																																																																																																																																
その他	千円							0																																																																																																																																																																																																																																																																
支出計(I)=(F)+(G)+(H)		千円	0	10,066	11,567	15,445	14,224	3,878																																																																																																																																																																																																																																																																
収入内訳	国庫支出金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																
	都支出金	千円		3,426	2,663	11,220	9,216	8,557																																																																																																																																																																																																																																																																
	分担金及び負担金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																
	使用料及び手数料	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																
	繰入金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																
	その他	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																
	収入計(J)		千円	0	3,426	2,663	11,220	9,216	8,557																																																																																																																																																																																																																																																															
収支差額(K)=(J)-(I)		千円	0	-6,640	-8,904	-4,225	-5,008	4,679																																																																																																																																																																																																																																																																
一般財源投入割合		%	#DIV/0!	66%	77%	27%	35%	#DIV/0!																																																																																																																																																																																																																																																																

2 評価の部(CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関与性評価	① 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 公教育制度下においては、適正な予算配当事業である。 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?																
有効性評価	② 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか? 学校との連携を強め、各校の特性を活かすことで、成果向上を図ることができる。なお、適切な講師や指導員の確保にも努める必要がある。																
	③ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?) 各々の教育事業の目的に限定し予算措置を行うことは、有効性があり学校教育が向上する等の成果が期待できるため、継続するべきである。																
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 児童・生徒の学力向上及び思考力・判断力・表現力等を高めるための事業であるため、類似する事業はないか?																
<b>活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?</b> 本事業の有効性は十分であると判断できる。また、学校との連携を強め、各校の特性を活かすことで、成果向上を図ることができる。なお、適切な講師や指導員の確保にも努める必要がある。																		
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保余地	<input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 配当された予算を各校に精査し、無駄なく有効に執行することに努め、十分成果を挙げており、事業費の削減は学校教育の質の低下に繋がる。 さらなる歳入を確保できないか?																
	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)必要最低限の業務であり、削減の余地はない。																
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか? 公教育制度においては、全ての児童・生徒及び教員に対し成果が期待できる、有効かつ適正な事業である。																
<b>事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?</b> 課題は特になし。																		
<b>3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)</b>																		
(1) 担当課評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																
① 公共関与と妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	放課後学習支援教室においては、リーダーを中心に異動を実施して、運営方法や指導法の交流・発展を企図している。 (4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td></td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>		削減	維持	増加	向上			○	維持			×	低下	×		×
	削減		維持	増加														
向上				○														
維持				×														
低下	×		×															
② 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり																	
③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																	
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																	
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載																		
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)																		
放課後学習支援教室においては、将来的に中学生まで広げ、国立市全体の学力向上を図っていく。そのためにも、人材の確保は重要であり、開始日には人及び教材等全て整っている事が理想であり、参加児童・生徒の意欲を向上させる指導方法が求められる。																		
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策																		
放課後学習支援教室での人材の確保が重要となる。また、教材等が不足しているため指導準備を滞りなく行う必要がある。																		
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたことになりませんか。また、見直し・廃止となりますか?放課後学習支援教室においては、将来的に中学生まで拡大し、学力向上及び学習習慣の定着を図っていく。また、ICTを活用し児童・生徒の学力レベルにあった個別指導を可能にしていく。																		



評価実施 平成 29 年度	事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)												
事務事業名	No. 21	いじめ防止対策推進事業			←実施計画上の重点項目 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください								
政策名	No. 2	2 子育て・教育			所属部	教育委員会	所属課	教育指導支援課					
施策名	No. 5	基本施策5 学校教育の充実			所属係	指導支援係	課長名	三浦 利信					
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	法令根拠							
	一般	1	0	0	1	0	3	1	4	5	3	9	0
事業期間	単年度のみ			<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返			期間限定複数年度 (年度 ~ 年度)						
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)					この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)								
いじめの問題は、重大な人権上の問題である。国立市いじめ防止対策推進基本方針に基づき、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進する。小学校における弁護士による「いじめの授業」、中学校における「いじめ防止プログラム」、保護者・地域と連携した「教育フォーラム」の実施、有識者等による「いじめ問題対策委員会」を開催する。					平成25年9月に「いじめ防止対策推進法」が、平成26年7月に「東京都いじめ防止対策推進条例」が施行されたことを受け、平成26年12月に国立市におけるいじめの防止等の施策を効果的に推進するための「国立市いじめ防止対策推進条例」が制定された。教育委員会では、市立小・中学校の児童・生徒が楽しく生き生きと学校生活を送ることができるよう、「国立市いじめ防止対策推進基本方針」を定め、いじめの問題に対する取組を総合的に始めた。								
【予算内訳】 報酬、報償費(謝礼)、需用費(消耗品費)(印刷製本費)、役務費(筆耕翻訳料)					裁量性の小さい理由・根拠 事業類型を選択してください。								

1 現状把握の部(PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段: 平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載)  
国立市立学校における、いじめの防止等のための対策を効果的に行うようにするため学識経験者等から構成する「いじめ問題対策委員会」を開催し、施策の効果について検証した。国立市立中学校で、主体的にいじめの問題に取り組める生徒を育成するために「いじめ防止プログラム」を中学1年生徒に実施した。生徒による主体的ないじめ防止の取組についての意見交換を通して、いじめ問題に対する保護者・地域の理解・啓発を進める「教育フォーラム」を開催した。全小学校でいじめの問題に対する認識を深めさせるため弁護士による「いじめの授業」を実施した。

① 手段: 平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動を具体的に記載)  
28年度と同様の活動

② 対象(誰、何を対象にしているのか) \* 人や自然資源等  
市立小中学校の児童及び生徒、保護者、教職員

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)  
学校・家庭・地域・行政が連携を図り、国立市立学校でのいじめの問題に総合的に取り組み、学校生活の充実に図る。

④ 結果: 基本施策の目的や効果をもとめるためのこの事業の貢献度  
市立小・中学校の児童・生徒を、いじめのような人権侵害から守り、楽しく生き生きと学校生活を送ることができるようにする。

(2) 各指標等の推移

項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	ア							0
		イ							0
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	ア		57	53	115			62
		イ							0
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	ア		49	40	111			71
		イ							0
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	ア		0	1	1			0
		イ							0

(3) 事務事業コストの推移

項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
支出内訳	正規職員従事人数	人		1	1	1		
	延べ業務時間	時間		50	50	50		0
	正規職員人件費計(C)	千円	0	250	250	250	0	0
	再任用職員従事人数	人						
	延べ業務時間	時間						0
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0
	嘱託職員従事人数	人						
	延べ業務時間	時間						0
	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0
	人に係るコスト計(F)	千円	0	250	250	250	0	0
物に係るコスト	物件費	千円			1,352	593		-759
	うち委託料	千円						0
	維持補修費	千円						0
物に係るコスト計(G)		千円	0	0	1,352	593	0	-759
移転支的コスト	扶助費	千円				1,057		1,057
	補助費等	千円						0
	繰出金	千円						0
	その他	千円						0
移転支的コスト計(H)		千円	0	0	0	1,057	0	1,057
その他	千円							0
支出計(I)=(F)+(G)+(H)		千円	0	250	1,602	1,900	0	298
収入内訳	国庫支出金	千円						0
	都支出金	千円						0
	分担金及び負担金	千円						0
	使用料及び手数料	千円						0
	繰入金	千円						0
	その他	千円						0
	収入計(J)		千円	0	0	0	0	0
収支差額(K)=(J)-(I)		千円	0	-250	-1,602	-1,900	0	-298
一般財源投入割合		%	#DIV/0!	100%	100%	100%	#DIV/0!	#DIV/0!

2 評価の部(CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

① 公共関与の妥当性

見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映

妥当である ⇒【以下に理由を記入】

なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?

国立市立学校におけるいじめ防止の対策の推進は、国立市いじめ防止対策推進条例第4条及び第5条に示されているとおり、市及び教育委員会の責務である。

② 成果の向上余地

向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映

向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】

成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?

いじめの問題の重大性を理解させ、主体的に関わる児童・生徒を育てることで、いじめの早期発見・早期対応が進み、いじめの加害者も被害者もなくなることができる。

③ 廃止・休止の成果への影響

影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映

影響有 ⇒【その内容】

事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?)

国立市立学校において、いじめにより当該学校に在籍する児童・生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じる場合や相当の期間学校を欠席することを余儀なくされる等の重大事態が発生する可能性がある。

④ 類似事業との統廃合・連携の可能性

他に手段がある (具体的な手段、事務事業)

統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映

統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】

他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】

目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?

国立市立学校におけるいじめ防止のための取組を総合的に推進する施策は他にはなく、他の事業との統廃合は考えられない

活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?

いじめの問題については、発生しないことが最大の効果であるが、児童・生徒のコミュニケーション能力の低下等もあり、指標の推移のみでの評価が困難である。

⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保余地

事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映

事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】

成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)

いじめの問題は複雑化・多様化・深刻化しており、一層の総合的な取組が求められている。中学校で実施している「いじめ防止プログラム」に関しては、地域の教育力を活用し、同様の教育効果が図れるような施策を検討できれば、事業費の削減の可能性はある。

さらなる歳入を確保できないか?

⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地

削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映

削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】

やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)

いじめの問題に総合的に取り組むためには、学識経験者を始めとする多様な職種の方による検討・協議が不可欠であり、人件費等の削減は考えられない。

⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地

見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映

公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】

事業の内容が一部の受益者に偏っていないで公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?

いじめの問題は加害者や被害者だけではなく、他の児童・生徒にとっても重要である。いじめを許さない規範意識の醸成はすべての児童・生徒が参画して形成されるものであり、受益者負担は公正・公平といえる。

事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?

学校における人間関係は、年度ごとに大きく変わるものであり、施策の効果の継続性という点での評価が難しい。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)

(1) 担当課評価者としての評価結果

① 公共関与妥当性  適切  見直し余地あり

② 有効性  適切  見直し余地あり

③ 効率性  適切  見直し余地あり

④ 公平性  適切  見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)  
複雑化・多様化・深刻化しているいじめの問題について、SNS等学校生活の場以外での問題も多発しており、児童・生徒への取組だけでは限界がある。保護者等への意識啓発及び協力を要請していく必要がある。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載

事業のやり方改善(有効性改善)  事業のやり方改善(効率性改善)  事業のやり方改善(公平性改善)

事業統廃合・連携  縮小  休止  廃止

現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

新規事業として、関係諸機関との連携で一定の成果を図ることができたが、継続的な取組をととして、より効果的な施策の在り方を検討していく必要がある。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

	削減	維持	増加
向上		○	
維持			×
低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策

いじめの多様化について、特にSNS等によるいじめについては、大人が子どものレベルに追いつけない現状がある。

(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?国立市及び国立市立学校全体が、いじめを許さない状況となり、学校でのいじめの発生件数が継続的になくなる。



評価実施 平成 29 年度		事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)												
事務事業名	No. 1	給食センター維持管理事業								←実施計画上の重点項目 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください				
政策名	No. 2	2 子育て・教育								所属部	教育委員会	所属課	給食センター	
施策名	No. 5	基本施策5 学校教育の充実								所属係		課長名	吉野勝治	
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	法令根拠	学校給食法 国立市立学校給食センター設置条例							
事業期間	一般	1	0	0	5	0	1	0	1	5	4	6	0	0
事業期間		単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		期間限定複数年度		( 昭和43 年度 ~ 年度 )						
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)														
給食センター維持管理事業は、市立小中学校の児童及び生徒に安全で安心な給食を提供するために必要な施設の維持管理の事業である。主な業務の内容は、次のとおりである。 ①施設の修繕 ②設備の保守点検 ③清掃等や維持管理 ④警備 ⑤消毒等 ⑥ごみ等の処分														
この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか) 昭和41年9月、学校給食の早期実現を望む19,000名に及ぶ署名請願が町議会に出され、各校方式かセンター方式かの論議の末、昭和42年11月、小、中学校同時にセンター方式で学校給食を実施することを決定。翌昭和43年1月、給食センター建設に着手、9月9日、小中学校7校(当時小学校5校、中学校2校)5,400食を対象に完全給食が実施された。 裁量性の小さい理由・根拠 法令等により事業の実施が義務付けられている事業														
1 現状把握の部(PLAN) (DO)														
(1) 事務事業の目的と指標														
①手段:平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載) 施設修繕:8,146千円、保守点検、清掃、警備、消毒、ごみ等の処分														
①手段:平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動を具体的に記載) 施設修繕:13,861千円、保守点検、清掃、警備、消毒、ごみ等の処分														
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 児童・生徒														
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか 安全でバランスの取れたおいしい給食の喫食														
④結果:基本施策の目的や効果を高めるためのこの事業の貢献度 児童・生徒が、自ら学び自ら考える力をつけ、社会的な自立に貢献する。														
(2)各指標等の推移														
項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)(A)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)					
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	修繕・改修工事件数	1	1	1	2	1	1	1					
	保守点検件数	イ 件	8	8	9	9	9	9	0					
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	給食センター施設面積(第一+第二+敷地面積)	3,111.85	3,111.85	3,111.85	3,111.85	3,111.85	3,111.85	0					
		給食センター調理業務従事者数	イ 人	37	39	39	39	39	0					
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	食中毒発生件数	0	0	0	0	0	0	0					
		調理場内事故(怪我等)件数	イ 件	9	4	2	5	0	3					
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	教育目標・方針に対する達成度	ア %						0					
			イ						0					
(3)事務事業コストの推移														
項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)						
支出内訳	人に係るコスト	正規職員従事人数	人	6	6	5	5	5	0					
		延べ業務時間	時間	4,333	4,333	3,193	3,193	3,193	0					
		正規職員人件費計(C)	千円	21,665	21,665	15,965	15,965	15,965	0					
		再任用職員従事人数	人			1	1	1	0					
		延べ業務時間	時間			1,600	1,600	1,600	0					
		再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	3,200	3,200	3,200	0					
		嘱託職員従事人数	人						0					
		延べ業務時間	時間						0					
		嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0					
		人に係るコスト計(F)	千円	21,665	21,665	19,165	19,165	19,165	0					
物に係るコスト	物件費	千円	41,411	31,937	29,828	22,910	31,114	-6,918						
	うち委託料	千円	10,803	10,818	11,981	12,180	13,282	199						
	維持補修費	千円	8,999	8,101	9,743	9,916	13,861	173						
	物に係るコスト計(G)	千円	50,410	40,038	39,571	32,826	44,975	0						
移転支的コスト	扶助費	千円						0						
	補助費等	千円	72	13	3	3	47	0						
	繰出金	千円						0						
	その他	千円	5,765	5,130	7,636	12,209	0	4,573						
移転支的コスト計(H)	千円	5,837	5,143	7,639	12,212	47	0							
その他	千円							0						
支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	77,912	66,846	66,375	64,203	64,187	0							
収入内訳	国庫支出金	千円						0						
	都支出金	千円	84	86	86			-86						
	分担金及び負担金	千円						0						
	使用料及び手数料	千円						0						
	繰入金	千円						0						
	その他	千円						0						
	収入計(J)	千円	84	86	86	0	0	0						
収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-77,828	-66,760	-66,289	-64,203	-64,187	0							
一般財源投入割合	%	100%	100%	100%	100%	100%	#DIV/0!							

2 評価の部(CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共 関与 性 評 価	① 公共関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】
	なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?	本事業は、安全でバランスのとれたおいしい給食の提供のための事業のため、給食事業の主体である行政が関与するのは妥当と判断する。 給食センターは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、市が設置しているので、本事業は市が行う事業である。
有 効 性 評 価	② 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 給食センター施設のさらなる充実
	③ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 児童、生徒に給食の提供ができなくなり、給食事業の実施に影響があると判断する。 安全でバランスの取れたおいしい給食の提供は、義務教育の充実に結びつく。
効 率 性 評 価	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 学校給食事業は国立市の場合、センター方式で行っており、他の事業との統廃合・連携は難しい。
	活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は? 今後、施設老朽化に伴う新たな施設建て替えの議論を進めていく必要がある。	
公 平 性 評 価	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 運営方式の変更により削減余地あり
	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 センターの運営方式の見直しなどにより
公 平 性 評 価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 義務教育の充実は教育委員会(市)の責務である。
	事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は? 施設老朽化により、修繕は減らない状況にあり、今後新たな施設の建て替えのあり方を示していく必要がある。	
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)		
(1) 担当課評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 今後、施設老朽化に伴う新たな施設建て替えの議論を進めていく必要がある。
① 公共関与と妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
② 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
③ 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 次の課題に対応した改革改善案の検討を要す。		(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)
		コスト 削減 維持 増加 向上 維持 低下 ○ × ×
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 児童生徒の保護者との合意形成。		
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか? 施設は継続的に利用されるため維持管理事業自体は廃止とはならない。		

評価実施 平成 29 年度		事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)												
事務事業名	No. 8	給食センター運営審議会運営事業								←実施計画上の重点項目 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください				
政策名	No. 2	2 子育て・教育								所属部	教育委員会	所属課	給食センター	
施策名	No. 5	基本施策5 学校教育の充実								所属係		課長名	吉野勝治	
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	法令根拠	国立市立学校給食センター設置条例 国立市立学校給食センター運営審議会規則							
事業期間	一般	1	0	0	5	0	1	0	1	5	4	5	0	0
事業期間		単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		期間限定複数年度		→ ( 昭和43 年度 ~ 年度 )						
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)														
給食センター運営審議会は、学校給食に関する管理運営事項を審議するために設置されており、年6回程度の会議を開催している。委員の構成は、次のとおりである。 ①市立学校長代表1名②市立学校給食主任代表1名③市立学校食育リーダー代表1名④市立学校保護者代表各校1名⑤市立学校医代表1名⑥市立学校薬剤師代表1名⑦学識経験者2名														
この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか) 昭和43年7月に管理運営、運営事項を審議決定し、教育委員会へ答申することを目的として設置された。														
裁量性の小さい理由・根拠 法令等により事業の実施が義務付けられている事業														
1 現状把握の部(PLAN) (DO)														
(1) 事務事業の目的と目標														
①手段:平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載) 6回開催														
①手段:平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動を具体的に記載) 平成28年度と同様														
②対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 給食センターの管理運営事項														
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 給食センターの管理運営全般についての課題について、その解決に向けての方向性の提案を受け、円滑な管理運営に結び付ける。														
④結果:基本施策の目的や効果を高めるためのこの事業の貢献度														
(2)各指標等の推移														
項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)(A)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)					
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	運営審議会実施回数	回	6	6	7	6	6	-1					
		審議会員数	人	18	18	18	18	18	0					
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	議題数	件	23	23	27	23	23	-4					
		方向性が出た議題数/議題数	%	100	100	100	100	100	0					
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	教育目標・方針に対する達成度	%						0					
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)								0					
(3)事務事業コストの推移														
項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)						
支出内訳	人に係るコスト	人	7	7	6	6	6	0						
	正規職員従事人数	時間	860	860	760	760	760	0						
	延べ業務時間	千円	4,300	4,300	3,800	3,800	3,800	0						
	正規職員人件費計(C)	人						0						
	再任用職員従事人数	時間						0						
	延べ業務時間	千円	0	0	0	0	0	0						
	再任用職員人件費計(D)	人						0						
	嘱託職員従事人数	時間						0						
	延べ業務時間	千円	0	0	0	0	0	0						
	嘱託職員人件費計(E)	千円	4,300	4,300	3,800	3,800	3,800	0						
人に係るコスト計(F)	千円	117	153	179	186	292	7							
物に係るコスト	千円						0							
物件費	千円						0							
うち委託料	千円						0							
維持補修費	千円						0							
物に係るコスト計(G)	千円	117	153	179	186	292	0							
移転支的コスト	千円						0							
扶助費	千円						0							
補助費等	千円						0							
繰出金	千円						0							
その他	千円						0							
移転支的コスト計(H)	千円	0	0	0	0	0	0							
その他	千円	774	810	783	892	1,147	109							
支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	5,191	5,263	4,762	4,878	5,239	0							
収入内訳	国庫支出金	千円					0							
	都支支出金	千円					0							
	分担金及び負担金	千円						0						
	使用料及び手数料	千円						0						
	繰入金	千円						0						
	その他	千円						0						
収入計(J)	千円	0	0	0	0	0	0							
収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-5,191	-5,263	-4,762	-4,878	-5,239	0							
一般財源投入割合	%	100%	100%	100%	100%	100%	#DIV/0!							

2 評価の部(CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価																	
公共関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?																
成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?																
廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?)																
類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?																
活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?	給食センターの管理運営全般の課題について、委員からの意見・提案を受けるが、審議するにあたって適切な資料提供するための準備に時間がかかる。																
事業費の削減余地・歳入の確保	<input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など) さらなる歳入を確保できないか?																
人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)																
受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか?受益者負担が公平・公正になっているか?																
事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?	特にないが、運営審議会委員に丁寧な資料提供が求められる。																
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)																	
(1)担当課評価者としての評価結果	(2)全体総括(振り返り、反省点) 運営審議会が審議しやすい会議の運営に努める。																
① 公共関与と妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																	
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td></td> <td>×</td> </tr> </table>		削減	維持	増加	向上	○			維持			×	低下	×		×
	削減	維持	増加														
向上	○																
維持			×														
低下	×		×														
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 運営審議会委員への適切な資料の提供。																	
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか? 現状では見直し・廃止はできない。																	



評価実施 平成 29 年度		事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)									
事務事業名	No. 5	栄養指導事業									
政策名	No. 2	2 子育て・教育									
施策名	No. 5	基本施策5 学校教育の充実									
予算科目	会計 一般	款 1	項 0	目 5	事業コード 10154600	所属部	教育委員会	所属課	給食センター	課長名	吉野勝治
事業期間	単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度		(昭和43年度 ~ 年度)				
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)						この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)					
<p>栄養指導事業は、学校給食法第2条に掲げる目的を達成するために、栄養知識の伝達、食生活面の具体的な指導を行い、健康の維持・増進を図るための事業である。</p> <p>①月1回の献立メモによる栄養知識の伝達や食生活面の指導</p> <p>②学校活動における栄養指導</p>						<p>昭和43年9月に小・中学校7校(当時小学校5校、中学校2校)5,400食を対象に完全給食が開始されたため。</p>					
1 現状把握の部(PLAN)(DO)						裁量性の小さい理由・根拠					
(1) 事務事業の目的と指標						法令等により事業の実施が義務付けられている事業					
①手段:平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載)											
①献立メモの作成:給食実施日毎日(小学校)、56回(中学校)											
②食育関連事業等:ミルク教室:3回(小学校)、3回(中学校)											
①手段:平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動を具体的に記載)											
平成28年度と同様											
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等						③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)					
児童・生徒						<p>①日常生活における食事についての正しい理解が深まる。</p> <p>②健全な食生活を営むことの判断力を培える。</p> <p>③望ましい食習慣を養える。</p>					
④結果:基本施策の目的や効果を高めるためのこの事業の貢献度											
児童・生徒が、自ら学び自ら考える力をつけ、社会的な自立に貢献する。											
(2)各指標等の推移											
項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)(A)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)		
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	献立メモ作成枚数	ア 枚	193	192	193	192	192	-1		
			イ						0		
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	児童数	ア 人	3,125	3,094	3,091	3,092	3,440	1		
		生徒数	イ 人	1,439	1,358	1,377	1,377	1,520	0		
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	食育関連事業等件数	ア 件	6	2	10	11	11	1		
			イ						0		
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	教育目標・方針に対する達成度	ア %						0		
			イ						0		
(3)事務事業コストの推移											
項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)(A)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)			
支出内訳	人に係るコスト	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	4	0		
		延べ業務時間	時間	220	220	220	220	220	0		
		正規職員人件費計(C)	千円	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	0		
		再任用職員従事人数	人						0		
		延べ業務時間	時間						0		
		再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0		
	物に係るコスト	嘱託職員従事人数	人						0		
		延べ業務時間	時間						0		
		嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0		
		人に係るコスト計(F)	千円	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	0		
		物件費	千円	86	96	96	78	105	-18		
		うち委託料	千円						0		
移転支的コスト	維持補修費	千円						0			
	物に係るコスト計(G)	千円	86	96	96	78	105	-18			
	扶助費	千円						0			
	補助費等	千円						0			
	繰入金	千円						0			
その他	繰入金	千円						0			
	その他	千円						0			
支出計(I)=(F)+(G)+(H)		千円	1,186	1,196	1,196	1,178	1,205	0	-18		
収入内訳	国庫支出金	千円							0		
	都支出金	千円							0		
	分担金及び負担金	千円							0		
	使用料及び手数料	千円							0		
	繰入金	千円							0		
	その他	千円							0		
収入計(J)		千円	0	0	0	0	0	0	0		
収支差額(K)=(J)-(I)		千円	-1,186	-1,196	-1,196	-1,178	-1,205	0	18		
一般財源投入割合		%	100%	100%	100%	100%	100%	#DIV/0!			

2 評価の部(CHECK)\*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関与の妥当性	① 公共関与の妥当性	見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映																				
	なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるのか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 本事業は、学校給食法第2条に掲げる目標の達成のための事業であり、給食事業の主体である行政が関与するのは妥当と判断する。 給食センターは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、市が設置しているので、本事業は市が行う事業である。																				
成果の向上余地	② 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 学校との連携による学校活動における栄養指導の充実																				
	成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?																					
廃止・休止の成果への影響	③ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 栄養知識の伝達や食生活の具体的な指導の機会が失われ、食育の充実に影響がある。																				
	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?)																					
類似事業との統廃合・連携の可能性	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 他の事業との統廃合は困難である。																				
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?																					
活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?																						
学校に出勤事業を行う形で行っているため、学校での要請・栄養士の体制により事業が出来るかどうかの制約がある。																						
事業費の削減余地・歳入の確保	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 現在は給食センターの栄養士等が学校に赴いて行っているが、委託等で学校が行うことも考えられる。																				
	成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)さらなる歳入を確保できないか?																					
人件費(延べ業務時間)の削減余地	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)																				
受益機会・費用負担の適正化余地	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 事業の内容が一部の受益者に偏っている不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?																				
		義務教育の充実は教育委員会(市)の責務であり、市の栄養士等が行うことが適当である。																				
事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?																						
栄養士が通常業務の中でどのように栄養指導までやっていたか。																						
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)																						
(1)担当課評価者としての評価結果		(2)全体総括(振り返り、反省点)																				
① 公共関与と妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		学校との連携による学校活動における栄養指導のいかに充実させるか。																				
(3)今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載		(4)改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																				
<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 次の課題に対応した改革改善案の検討を要す。		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="2">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>維持低下</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○		維持		×	低下	×	×	維持低下		
	コスト																					
	削減	維持	増加																			
成果	向上	○																				
	維持		×																			
	低下	×	×																			
	維持低下																					
(5)改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策																						
栄養士の他の業務との業務バランス																						
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?																						
食育が充実している状態																						



評価実施 平成 29 年度		事務事業マネジメントシート (兼 事務事業コスト計算書)									
事務事業名	No. 7	給食費収納事務								実施計画上の重点項目	重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください
政策名	No. 7	2 子育て・教育						所属部	教育委員会	所属課	給食センター
施策名	No. 5	基本施策5 学校教育の充実						所属係		課長名	吉野勝治
予算科目	合計 5	款 11	項 01	目 01	事業コード 01	01	01	01	法令根拠	国立市立学校給食センターの給食費に関する規則	
事業期間	単年度のみ	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰越		期間限定年度		( 昭和43 年度 ~ 年度 )					
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)		この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)									
学校給食運営に要する費用として、食料費に充当する給食費の収納事業である。主な事業の概要は次のとおりである。毎月:毎月の給食費徴収事務(口座振替・納入通知書納入分) 随時:未納者への督促(督促状の送付、電話及び訪問徴収)		昭和43年1月、給食センター建設に着手、9月9日、小中学校7校(当時小学校5校、中学校2校)5,400食を対象に完全給食が実施されるようになり、国立市立学校給食センターの給食費に関する規則も、昭和43年9月2日より施行された。									
		裁量性の小さい理由・根拠 法令等により事業の実施が義務付けられている事業									
1 現状把握の部(PLAN/DO)											
(1) 事務事業の目的と指標											
① 手段:平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載) 毎月:毎月の給食費徴収事務(口座振替・納入通知書納入分) 随時:未納者への督促(督促状の送付、電話及び訪問徴収)											
① 手段:平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動を具体的に記載) 平成28年度と同様											
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 児童・生徒の保護者、教職員等											
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)											
④ 結果:基本施策の目的や効果を高めるためのこの事業の貢献度 食料費に給食費を充当し、安心・安全でおいしい給食を提供する。											
(2) 各指標等の推移											
項目	名称	単位	平成25年度 (決算)	平成26年度 (決算)(A)	平成27年度 (決算)(A)	平成28年度 (決算見込み)(B)	平成29年度 (当初予算)	目標年度 (目標値)	差額 (B)-(A)		
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 督促状送付件数(郵送は基本的に児童・生徒のみ対象)	給食費登録者数(中途出入者を含む)	人	5,033	4,931	4,913	4,907	4867	-6		
			人	1,550	1,329	1,424	1,404	1364	-20		
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標) 児童生徒・教職員数(5月1日現在)		人	4,832	4,795	4,737	4,741		4		
			人						0		
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 給食費収納率(現年度) 滞納者延数(現年度未納者+過年度滞納者)		%	99	99	99			-99		
			人	404	407	300			-300		
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 教育目標・方針に対する達成度		%						0		
			人						0		
(3) 事務事業コストの推移											
支出内訳	人に係るコスト	正規職員従事人数	人	5	5	4	4	4			
		延べ業務時間	時間	3,088	3,088	2,688	2,688	2,688		0	
		正規職員人件費計(C)	千円	15,440	15,440	13,440	13,440	13,440	0	0	
		再任用職員従事人数	人							0	
		延べ業務時間	時間							0	
		再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0	0	
		嘱託職員従事人数	人							0	
		延べ業務時間	時間							0	
		嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0	0	
		人に係るコスト計(F)	千円	15,440	15,440	13,440	13,440	13,440	0	0	
	物に係るコスト	物性費	千円	491	527	459	668	507		209	
		うち委託料	千円							0	
		維持補修費	千円							0	
		物に係るコスト計(G)	千円	491	527	459	668	507	0	209	
	移転支出的なコスト	扶助費	千円							0	
		補助費等	千円							0	
		繰出金	千円							0	
		その他	千円							0	
	その他	移転支出的なコスト計(H)	千円	0	0	0	0	0	0	0	
		その他	千円							0	
支出計(I)=(F)+(G)+(H)		千円	15,931	15,967	13,899	14,108	13,947	0	209		
収入内訳	国庫支出金	千円							0		
	都道府県支出金	千円							0		
	分府省及び市町村	千円							0		
	交付金及び補助金	千円							0		
	使用料及び手数料	千円							0		
	繰入金	千円							0		
	その他	千円							0		
収入計(J)		千円	0	0	0	0	0	0	0		
収支差額(K)=(J)-(I)		千円	-15,931	-15,967	-13,899	-14,108	-13,947	0	-209		
一般財源投入割合		%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	#DIV/0!		

2 評価の部(CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価	
① 公共関与の妥当性	見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 妥当である ⇒【以下に理由を記入】
② 成果の向上余地	見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】
③ 廃止・休止の成果への影響	影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 影響有 ⇒【その内容】
④ 類似事業との統合・連携の可能性	他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 統合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 統合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】
⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保	事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】
⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減	削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】
⑦ 受益機会・費用負担の適正化	見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】
⑧ 効率性	効率性が高い ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 効率性が低い ⇒【以下に理由を記入】
⑨ 公平性	公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 公平・公正でない ⇒【以下に理由を記入】
活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は? システム導入をはじめとした取納率の向上に向けた取り組みについて引き続き構築していく必要がある。	
事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は? 学校給食はセンター方式で行っていることもあり、過去の経緯で実施主体は給食センターとなっている。今後、徴収率向上のための方策については、徴収体制を含め、検討の余地がある。	
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)	
(1) 担当課評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 実施主体は市とらざるを得ないため、徴収率向上のための方策は今後も検討する必要がある。
① 公共関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
② 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 事業統合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 口座加入率の拡大など徴収率向上策を検討していく。	
(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) コスト 削減 維持 増加 向上 ○ 維持 × 低下 ×	
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 保護者の給食費納入に対する理解	
(6) <目標達成基準・見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか? 給食費の滞納がなくなり、食料費へ充当できる状態	



評価実施 平成 29 年度		事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)										
事務事業名	No.	多摩地区学校給食共同調理場連絡協議会参画事業			実施計画上の重点項目		重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください					
	10											
政策名	No.	2 子育て・教育			所属部	教育委員会	所属課	給食センター				
施策名	No.	基本施策5 学校教育の充実			所属係		課長名	吉野勝治				
予算科目	会計	一般			款	1	項	0	目	5	事業コード	154600
	法令根拠	多摩地区学校給食共同調理場連絡協議会規約										
事業期間	単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		期間限定複数年度		→ ( 昭和43 年度 ~ 年度 )					
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)					この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)							
共同調理場の諸問題についての交流と情報の交換等によって、学校給食の研究推進と充実を図ることを目的とした多摩地区学校給食共同調理場連絡協議会に参画し、給食センター職員の知識の向上等を図っている。協議会は、共同調理場による給食を提供している多摩地区の13市、2町、1村、1組合をもって構成し、主な諸問題の内容としては次のとおりである。 ①食材の購入②衛生管理③給食費④運営、設備⑤従事者の管理研修⑥その他					昭和50年4月に学校給食共同調理場の諸問題について、情報交換、学校給食の研究と推進を図ることを目的として設置された。							
					裁量性の小さい理由・根拠 各種協議会等への参画のみを行っている事業							
1 現状把握の部(PLAN)(DO)												
(1) 事務事業の目的と指標												
①手段:平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載) ①総会:1回出席②場長会:3回出席③給食運営管理研究部会:3回出席 ④献立研究部会:8回出席⑤合同研修会:1回出席 執行額:5,000円(分担金)												
①手段:平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動を具体的に記載) 平成28年度と同様												
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 給食センター					③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 情報交換により、共同調理場の運営を円滑に進める。							
④結果:基本施策の目的や効果を高めるためのこの事業の貢献度												
(2)各指標等の推移												
項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)(A)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)			
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	出席回数	回	7	16	16	16	16	0			
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	給食センター職員(正職員)	人	13	13	12	12	12	0			
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	会議に参加して得られた情報件数	件	10	10	10	10	10	0			
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)								0			
(3)事務事業コストの推移												
項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)				
支出内訳	正規職員従事人数	人	6	6	5	5	5	0				
	延べ業務時間	時間	205	205	160	160	160	0				
	正規職員人件費計(C)	千円	1,025	1,025	800	800	800	0				
	再任用職員従事人数	人										
	延べ業務時間	時間										
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0				
	嘱託職員従事人数	人										
	延べ業務時間	時間										
	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0				
	人に係るコスト計(F)	千円	1,025	1,025	800	800	800	0				
物に係るコスト	物件費	千円										
	うち委託料	千円										
	維持補修費	千円										
物に係るコスト計(G)	千円	0	0	0	0	0	0					
移転支的コスト	扶助費	千円										
	補助費等	千円	5	5	5	5	5	0				
	繰出金	千円										
	その他	千円										
移転支的コスト計(H)	千円	5	5	5	5	5	0					
その他	千円											
支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	1,030	1,030	805	805	805	0					
収入内訳	国庫支出金	千円										
	都支支出金	千円										
	分担金及び負担金	千円										
	使用料及び手数料	千円										
	繰入金	千円										
	その他	千円										
	収入計(J)	千円	0	0	0	0	0	0				
収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-1,030	-1,030	-805	-805	-805	0					
一般財源投入割合	%	100%	100%	100%	100%	100%	#DIV/0!					

2 評価の部(CHECK)\*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関与性評価	① 公共関与の妥当性	見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映																							
	なぜこの事業を行政が行わなければならないか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?	義務教育における学校給食の役割はますます重要となっている。学校給食事業の運営に行政の関与は妥当であると判断する。 給食センターは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、市が設置しているため、本事業は市が行う事業である。																							
有効性評価	② 成果の向上余地	向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 協議会における諸問題についての交流や情報交換等は有益である。																							
	成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?																								
公平性評価	③ 廃止・休止の成果への影響	影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 影響有 ⇒【その内容】 学校給食事業を運営するうえで有益な協議会のため、本事務事業を廃止した場合には、今後の事業運営に影響があると判断する。 学校給食事業の充実、義務教育の充実に結びつく。給食センター職員の知識の向上は義務教育の充実に不可欠であると判断する。																							
	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?)																								
効率性評価	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	他に手段がある (具体的な手段、事務事業) 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 他の類似機関等はなし。																							
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?																								
活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は? 特に無し。																									
公平性評価	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保	事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 学校給食事業を運営するうえで有益な協議会であり、代替による事業費の削減余地はないと判断する。																							
	成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など) さらなる歳入を確保できないか?																								
公平性評価	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減	削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 学校給食は義務教育の一環で、給食センターの設置者は市のため、正職員での対応とならざるを得ない。																							
	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)																								
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化	見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 義務教育の充実は教育委員会(市)の責務であるため。																							
	事業の内容が一部の受益者に偏っていないか?受益者負担が公平・公正になっているか?																								
事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は? 特に無し。																									
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)																									
(1) 担当課評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 学校給食事業を運営するうえで、有益な協議会である。																							
① 公共関与と妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
② 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)...具体的に記載 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)		(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策																									
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか? 見直し・廃止はなし																									



評価実施 平成 29 年度 事務事業マネジメントシート（兼 事務事業コスト計算書）

事務事業名: 献立作成事業
政策名: 2 子育て・教育
施策名: 基本施策5 学校教育の充実
所属部: 教育委員会
所属課: 給食センター
課長名: 吉野勝治

事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)
この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)
昭和43年9月に小・中学校7校(当時小学校5校、中学校2校)5、400食を対象に完全給食が開始されたため。

- 1 現状把握の部(PLAN) (DO)
(1) 事務事業の目的と指標
① 手段: 平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載)
献立作成委員会: 11回開催
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)
④ 結果: 基本施策の目的や効果をもとにこの事業の貢献度
児童・生徒が、自ら学び自ら考える力をつけ、社会的な自立に向けて豊かな人間関係を培っていく。

Table with 9 columns: 項目, 名称, 単位, 平成25年度(決算), 平成26年度(決算)(A), 平成27年度(決算)(A), 平成28年度(決算見込み)(B), 平成29年度(当初予算), 目標年度(目標値), 差額(B)-(A). Rows include 活動指標(献立数), 対象指標(児童数, 生徒数), 成果指標(献立作成委員会での意見等), 上位成果指標(教育目標・方針に対する達成度).

Table with 9 columns: 項目, 単位, 平成25年度(決算), 平成26年度(決算)(A), 平成27年度(決算)(A), 平成28年度(決算見込み)(B), 平成29年度(当初予算), 目標年度(目標値), 差額(B)-(A). Rows include 人に係るコスト(正規職員従事人数, 延べ業務時間, etc.), 物に係るコスト(物件費, 維持補修費, etc.), 移転支出的なコスト(扶助費, 補助費等), 収入内訳(国庫支出金, 都支出金, etc.), 収支差額(K)=(J)-(I).

2 評価の部(CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価
① 公共関与の妥当性
② 成果の向上余地
③ 廃止・休止の成果への影響
④ 類似事業との統廃合・連携の可能性
⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保
⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地
⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)
(1) 担当課評価者としての評価結果
(2) 全体総括(振り返り、反省点)
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載
(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか？



評価実施 平成 29 年度	事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)												
事務事業名	No. 2 給食センター施設整備計画事業		←実施計画上の重点項目 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください										
政策名	No. 2 子育て・教育		所属部	教育委員会			所属課	給食センター					
施策名	No. 5 基本施策5 学校教育の充実		所属係				課長名	吉野勝治					
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	法令根拠							
	一般	1	0	0	5	0	1	0	1	5	4	6	0
事業期間	単年度のみ		単年度繰返		<input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 26 年度 ~ 28 年度 )								
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)			この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)										
給食センターの経年により、施設整備基本計画を策定する事業である。			平成17年度国立市学校給食センター運営審議会からの「これからの国立市の学校給食のあり方、運営形態などとするべき方策について(答申)」を踏まえ平成18年10月より検討委員会を開始した。										
			裁量性の小さい理由・根拠										
			公共施設、車両、システム等の維持管理を行う事業										

1 現状把握の部(PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

①手段:平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載)

給食センター更新計画に関する検討部会にて学校給食センター整備基本計画の策定を行った。

①手段:平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動を具体的に記載)

「給食センター整備基本計画」に基づき、建設候補用地をできるだけ早期に決定し、整備手法の検討等のためのPFI導入可能性調査に着手する。

②対象(誰、何を対象にしているのか) \* 人や自然資源等

給食センター施設

③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

安全でバランスの取れたおいしい給食の提供施設として整備する。

④結果:基本施策の目的や効果を高めるためのこの事業の貢献度

老朽化した給食センターを更新し、安心・安全な給食の提供を行う。

(2)各指標等の推移

項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)(A)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	検討委員会等開催回数	回	1	10	1			-9
			イ						0
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	敷地面積	㎡	3111.85	3111.85	3111.85	3111.85	3111.85	0
			イ						0
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	策定された計画数	計画			1			1
			イ						0
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	教育目標・方針に対する達成度	%						0
			イ						0

(3)事務事業コストの推移

項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
支出内訳	正規職員従事人数	人	5	5	4	4		0
	延べ業務時間	時間	820	820	620	620		0
	正規職員人件費計(C)	千円	4,100	4,100	3,100	3,100	0	0
	再任用職員従事人数	人						0
	延べ業務時間	時間						0
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0
	嘱託職員従事人数	人						0
	延べ業務時間	時間						0
	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0
	人に係るコスト計(F)	千円	4,100	4,100	3,100	3,100	0	0
物に係るコスト	物件費	千円			5,931			-5,931
	うち委託料	千円			5,931			-5,931
	維持補修費	千円						0
	物に係るコスト計(G)	千円	0	0	5,931	0	0	-5,931
移転支的コスト	扶助費	千円						0
	補助費等	千円						0
	繰出金	千円						0
	その他	千円						0
移転支的コスト計(H)	千円	0	0	0	0	0	0	
その他	千円							0
支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	4,100	4,100	9,031	3,100	0	0	-5,931
収入内訳	国庫支出金	千円						0
	都支出金	千円						0
	分担金及び負担金	千円						0
	使用料及び手数料	千円						0
	繰入金	千円						0
	その他	千円						0
	収入計(J)	千円	0	0	0	0	0	0
収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-4,100	-4,100	-9,031	-3,100	0	0	5,931
一般財源投入割合	%	100%	100%	100%	100%	#DIV/0!	#DIV/0!	

2 評価の部(CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

① 公共関与の妥当性

見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映

妥当である ⇒【以下に理由を記入】

なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?

本事業は、安全でバランスのとれたおいしい給食の提供のための事業のため、給食事業の主体である行政が関与するのは妥当と判断する。給食センターは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、市が設置しているので、本事業は市が行う事業である。

② 成果の向上余地

向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映

向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】

整備手法をどのようにするかで、成果を向上させる余地がある。

③ 廃止・休止の成果への影響

影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映

影響有 ⇒【その内容】

事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は? (そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?)

給食センター施設は老朽化により、多大な維持管理費を要しており、児童生徒への給食の提供にも多大な影響がある。給食センター施設の更新による安全でバランスの取れたおいしい給食の提供は、事務教育の充実に結びつく。

④ 類似事業との統廃合・連携の可能性

他に手段がある (具体的な手段、事務事業)

統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映

統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】

他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】

目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?

学校給食法に基づく施設運営のため、統廃合は不可能。

活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?

検討部会において、どのような整備手法に決めるかにより財政負担に大きく影響してくる。

⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保

事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映

事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】

成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)

給食センターの施設整備計画については市が責任をもって、行う必要がある。さらなる歳入を確保できないか?

⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地

削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映

削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】

やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)

給食センターの整備手法をどのようにするにせよ、市として責任を持つため、正職員での対応とならざるを得ない。

⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地

見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映

公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】

事業の内容が一部の受益者に偏っていないか?受益者負担が公平・公正になっているか?

義務教育の充実は教育委員会(市)の責務である。

事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?

市の財政事業等を勘案せざるを得ないところがある。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)

(1) 担当課評価者としての評価結果

① 公共関与と妥当性  適切  見直し余地あり

② 有効性  適切  見直し余地あり

③ 効率性  適切  見直し余地あり

④ 公平性  適切  見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載

事業のやり方改善(有効性改善)  事業のやり方改善(効率性改善)  事業のやり方改善(公平性改善)

事業統廃合・連携  縮小  休止  廃止

現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

次の課題に対応した改革改善案の検討を要す。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

	コスト		
	削減	維持	増加
向上		○	
維持			×
低下	×		×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策

児童生徒の保護者との合意形成。

(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?

施設は継続的に利用されるため維持管理事業自体は廃止とはならない。

評価実施 平成 29 年度		事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)																																																																																																																																																																																																																																																																													
事務事業名	No. 9	学校給食主任会運営事業								←実施計画上の重点項目 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください																																																																																																																																																																																																																																																																					
政策名	No. 2	2 子育て・教育								所属部	教育委員会	所属課	給食センター																																																																																																																																																																																																																																																																		
施策名	No. 5	基本施策5 学校教育の充実								所属係		課長名	吉野勝治																																																																																																																																																																																																																																																																		
予算科目	会計 一般	款 1	項 0	目 5	事業コード 010154600	法令根拠	国立市立学校給食センター設置条例施行規則、給食主任会規定																																																																																																																																																																																																																																																																								
事業期間	単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		期間限定複数年度		→ ( 昭和43 年度 ~ 年度 )																																																																																																																																																																																																																																																																								
<b>事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)</b> 学校給食主任会は、学校給食法第2条に掲げる目的を達するために市内小・中学校の学校給食用物資の調達、調理、輸送その他必要な事業の適正かつ円滑に遂行するための専門委員会の一つとして設置されており、教育委員会と各学校との連絡協議及び調査、研究を行うことを目的に、年2回の会議を実施している。																																																																																																																																																																																																																																																																															
<b>1 現状把握の部(PLAN) (DO)</b> (1) 事務事業の目的と指標 ① 手段: 平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載) 年2回(6月、2月)開催 ① 手段: 平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動を具体的に記載) 28年度と同様 ② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 市内各小・中学校給食主任 ③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) ① 給食事務等に関する連絡調整が図られる。 ② 給食事務等運営に関する情報交換が可能となる。 ④ 結果: 基本施策の目的や効果を高めるためのこの事業の貢献度 学校給食主任会の運営の充実によって、義務教育の充実につなげる。																																																																																																																																																																																																																																																																															
<b>(2) 各指標等の推移</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>平成25年度(決算)</th> <th>平成26年度(決算)(A)</th> <th>平成27年度(決算)(A)</th> <th>平成28年度(決算見込み)(B)</th> <th>平成29年度(当初予算)</th> <th>目標年度(目標値)</th> <th>差額(B)-(A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">① 手段</td> <td rowspan="2">活動指標(事務事業の活動量を表す指標)</td> <td>開催回数</td> <td>回</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>給食主任数</td> <td>人</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">② 対象</td> <td rowspan="2">対象指標(対象の大きさを表す指標)</td> <td>出席率</td> <td>%</td> <td>81.82</td> <td>77.27</td> <td>72.73</td> <td>68.18</td> <td>100</td> <td>-4.55</td> </tr> <tr> <td>上位成果指標(結果の達成度を表す指標)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>												項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)(A)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)	① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	開催回数	回	2	2	2	2	2	0	給食主任数	人	11	11	11	11	11	0	② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	出席率	%	81.82	77.27	72.73	68.18	100	-4.55	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)							0																																																																																																																																																																																																																						
項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)(A)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)																																																																																																																																																																																																																																																																						
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	開催回数	回	2	2	2	2	2	0																																																																																																																																																																																																																																																																						
		給食主任数	人	11	11	11	11	11	0																																																																																																																																																																																																																																																																						
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	出席率	%	81.82	77.27	72.73	68.18	100	-4.55																																																																																																																																																																																																																																																																						
		上位成果指標(結果の達成度を表す指標)							0																																																																																																																																																																																																																																																																						
<b>(3) 事務事業コストの推移</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>平成25年度(決算)</th> <th>平成26年度(決算)</th> <th>平成27年度(決算)(A)</th> <th>平成28年度(決算見込み)(B)</th> <th>平成29年度(当初予算)</th> <th>目標年度(目標値)</th> <th>差額(B)-(A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">支出内訳</td> <td>正規職員従事人数</td> <td>人</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>19</td> <td>19</td> <td>19</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>正規職員人件費計(C)</td> <td>千円</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>95</td> <td>95</td> <td>95</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>再任用職員従事人数</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>再任用職員人件費計(D)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>嘱託職員従事人数</td> <td>人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>嘱託職員人件費計(E)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>人に係るコスト計(F)</td> <td>千円</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>95</td> <td>95</td> <td>95</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">物に係るコスト</td> <td>物件費</td> <td>千円</td> <td>86</td> <td>96</td> <td>96</td> <td>78</td> <td>105</td> <td>-18</td> </tr> <tr> <td>うち委託料</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>維持補修費</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">物に係るコスト計(G)</td> <td>千円</td> <td>86</td> <td>96</td> <td>96</td> <td>78</td> <td>105</td> <td>-18</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">移転支的コスト</td> <td>扶助費</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>補助費等</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>繰出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">移転支的コスト計(H)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">支出計(I)=(F)+(G)+(H)</td> <td>千円</td> <td>206</td> <td>216</td> <td>191</td> <td>173</td> <td>200</td> <td>-18</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">収入内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>都支支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>分担金及び負担金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>使用料及び手数料</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>繰入金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">収入計(J)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">収支差額(K)=(J)-(I)</td> <td>千円</td> <td>-206</td> <td>-216</td> <td>-191</td> <td>-173</td> <td>-200</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">一般財源投入割合</td> <td>%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>#DIV/0!</td> </tr> </tbody> </table>												項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)	支出内訳	正規職員従事人数	人	4	4	3	3	3	0	延べ業務時間	時間	24	24	19	19	19	0	正規職員人件費計(C)	千円	120	120	95	95	95	0	再任用職員従事人数	人						0	延べ業務時間	時間						0	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0	嘱託職員従事人数	人						0	延べ業務時間	時間						0	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0	人に係るコスト計(F)	千円	120	120	95	95	95	0	物に係るコスト	物件費	千円	86	96	96	78	105	-18	うち委託料	千円						0	維持補修費	千円						0	物に係るコスト計(G)		千円	86	96	96	78	105	-18	移転支的コスト	扶助費	千円						0	補助費等	千円						0	繰出金	千円						0	その他	千円						0	移転支的コスト計(H)		千円	0	0	0	0	0	0	その他	千円							0	支出計(I)=(F)+(G)+(H)		千円	206	216	191	173	200	-18	収入内訳	国庫支出金	千円						0	都支支出金	千円						0	分担金及び負担金	千円						0	使用料及び手数料	千円						0	繰入金	千円						0	その他	千円						0	収入計(J)		千円	0	0	0	0	0	0	収支差額(K)=(J)-(I)		千円	-206	-216	-191	-173	-200	0	一般財源投入割合		%	100%	100%	100%	100%	100%	#DIV/0!
項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)																																																																																																																																																																																																																																																																							
支出内訳	正規職員従事人数	人	4	4	3	3	3	0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	延べ業務時間	時間	24	24	19	19	19	0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	正規職員人件費計(C)	千円	120	120	95	95	95	0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	再任用職員従事人数	人						0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	延べ業務時間	時間						0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	嘱託職員従事人数	人						0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	延べ業務時間	時間						0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	人に係るコスト計(F)	千円	120	120	95	95	95	0																																																																																																																																																																																																																																																																							
物に係るコスト	物件費	千円	86	96	96	78	105	-18																																																																																																																																																																																																																																																																							
	うち委託料	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	維持補修費	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																							
物に係るコスト計(G)		千円	86	96	96	78	105	-18																																																																																																																																																																																																																																																																							
移転支的コスト	扶助費	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	補助費等	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	繰出金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	その他	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																							
移転支的コスト計(H)		千円	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																							
その他	千円							0																																																																																																																																																																																																																																																																							
支出計(I)=(F)+(G)+(H)		千円	206	216	191	173	200	-18																																																																																																																																																																																																																																																																							
収入内訳	国庫支出金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	都支支出金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	分担金及び負担金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	使用料及び手数料	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	繰入金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																							
	その他	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																							
収入計(J)		千円	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																							
収支差額(K)=(J)-(I)		千円	-206	-216	-191	-173	-200	0																																																																																																																																																																																																																																																																							
一般財源投入割合		%	100%	100%	100%	100%	100%	#DIV/0!																																																																																																																																																																																																																																																																							

2 評価の部(CHECK) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関与性評価	① 公共関与の妥当性	見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映																
	なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?	給食事業の円滑な運営については、学校側との密接な連携は不可欠であり、事業主体である行政の関与は妥当であると判断する。給食センターは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、市が設置しているため、本事業は市が行う事業である。																
有効性評価	② 成果の向上余地	向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 給食主任会での連絡協議は必要なのではあるが、成果を向上させる余地はない。																
	③ 廃止・休止の成果への影響	影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 影響有 ⇒【その内容】 学校の給食事務を執行する給食主任との連絡調整ができなくなるにより、円滑な給食の事業運営に影響がある。給食主任会を開催することにより、学校側との連携協議が可能となり、義務教育の充実につながり結び付く。																
公平性評価	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	他に手段がある (具体的な手段、事務事業) 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 学校給食実施は学校と給食センターと連携し、連絡を密にする必要があるため、他の事業との統廃合は難しい。																
	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保	事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 円滑な給食の事業運営に有益な会議であり、代替による事業費の削減余地はないと判断する。																
公共関与性評価	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか?(アウトソーシングなど)																
	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 義務教育の充実には教育委員会(市)の責務であるため。																
事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は? 特になし。																		
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)																		
(1) 担当課評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																
① 公共関与と妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td></td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>		削減	維持	増加	向上			×	維持		○	×	低下	×		×
	削減	維持	増加															
向上			×															
維持		○	×															
低下	×		×															
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 次の課題に対応した改革改善案の検討を要す。																		
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 会議の回数増加もしくは実施時期の変更は考えられるが、給食主任となった教職員の業務負担の増加も伴うことが想定される。人事異動により年度当初に新たに給食主任となった教職員に対する事務説明会の開催などの対応が考えられる。																		
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか? 見直し・廃止は難しい。																		



評価実施 平成 29 年度		事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)																																																																																																																																																																																																																																																																											
事務事業名	No. 6	調理・配送・配膳事業		←実施計画上の重点項目 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください																																																																																																																																																																																																																																																																									
政策名	No. 2	2 子育て・教育		所属部	教育委員会	所属課	給食センター																																																																																																																																																																																																																																																																						
施策名	No. 5	基本施策5 学校教育の充実		所属係		課長名	吉野勝治																																																																																																																																																																																																																																																																						
予算科目	会計 一般	款 1	項 0	目 0	事業コード 1	2	3	4	5	6	7																																																																																																																																																																																																																																																																		
事業期間	単年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		期間限定複数年度 (昭和43年度～年度)																																																																																																																																																																																																																																																																								
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)																																																																																																																																																																																																																																																																									
調理業務 第一給食センターでは小学校8校分の、第二給食センターでは中学校3校分の給食の調理等一連の作業を実施している。(食材の検収、下処理、調理、食器等の用意、食卓への配食、残菜の処理、器具、食卓等の洗浄)				昭和41年9月、学校給食の早期実現を望む19,000名に及ぶ署名申請が町議会に出され、各校方式かセンター方式かの論議の末、昭和42年11月、小、中学校同時にセンター方式で学校給食を実施することを決定。翌昭和43年1月、給食センター建設に着手、9月9日、小中学校7校(当時小学校5校、中学校2校)5,400食を対象に完全給食が実施された。																																																																																																																																																																																																																																																																									
配送業務 食器、食卓等をコンテナに収納し、各学校に配送するとともに、給食終了後には食器、食卓等の回収を行う。配送は、小学校8校を3台、中学校3校を1台の車両で行っている。				裁量性の小さい理由・根拠 法令等により事業の実施が義務付けられている事業																																																																																																																																																																																																																																																																									
配膳業務 配送された食器、食卓等を各クラスごとに配膳するとともに、給食終了後には後片付けや回収に伴う配送車への搬入を行う。																																																																																																																																																																																																																																																																													
1 現状把握の部(PLAN) (DO)																																																																																																																																																																																																																																																																													
(1) 事務事業の目的と指標																																																																																																																																																																																																																																																																													
①手段:平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載) 給食実施:192回																																																																																																																																																																																																																																																																													
①手段:平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動を具体的に記載) 給食実施:194回																																																																																																																																																																																																																																																																													
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 児童・生徒				③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 安全でバランスの取れたおいしい給食の喫食																																																																																																																																																																																																																																																																									
④結果:基本施策の目的や効果を高めるためのこの事業の貢献度 児童・生徒が、自ら学び自ら考える力をつけ、社会的な自立に向けて豊かな人間関係を培っていく。																																																																																																																																																																																																																																																																													
(2)各指標等の推移																																																																																																																																																																																																																																																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>平成25年度(決算)</th> <th>平成26年度(決算)(A)</th> <th>平成27年度(決算)(A)</th> <th>平成28年度(決算見込み)(B)</th> <th>平成29年度(当初予算)</th> <th>目標年度(目標値)</th> <th>差額(B)-(A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">① 手段</td> <td>活動指標(事務事業の活動量を表す指標)</td> <td>調理日数</td> <td>190</td> <td>193</td> <td>193</td> <td>192</td> <td>194</td> <td></td> <td>-1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>配送回数</td> <td>380</td> <td>386</td> <td>386</td> <td>384</td> <td>388</td> <td></td> <td>-2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">② 対象</td> <td>対象指標(対象の大きさを表す指標)</td> <td>児童数</td> <td>3,125</td> <td>3,125</td> <td>3,091</td> <td>3,092</td> <td>3,440</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>生徒数</td> <td>1,439</td> <td>1,399</td> <td>1,377</td> <td>1,377</td> <td>1,520</td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">③ 意図</td> <td>成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)</td> <td>給食提供日数/給食実施基準日数</td> <td>100.5</td> <td>102.1</td> <td>102.1</td> <td>101.6</td> <td>100.0</td> <td></td> <td>-0.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td>残菜率</td> <td>13.2</td> <td>12.3</td> <td>12.3</td> <td>12.3</td> <td>12.0</td> <td></td> <td>-0.04</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">④ 結果</td> <td>上位成果指標(結果の達成度を表す指標)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>												項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)(A)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)	① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	調理日数	190	193	193	192	194		-1		配送回数	380	386	386	384	388		-2	② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	児童数	3,125	3,125	3,091	3,092	3,440		1		生徒数	1,439	1,399	1,377	1,377	1,520		0	③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	給食提供日数/給食実施基準日数	100.5	102.1	102.1	101.6	100.0		-0.5		残菜率	13.2	12.3	12.3	12.3	12.0		-0.04	④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)								0									0																																																																																																																																																																												
項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)(A)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)																																																																																																																																																																																																																																																																				
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	調理日数	190	193	193	192	194		-1																																																																																																																																																																																																																																																																				
		配送回数	380	386	386	384	388		-2																																																																																																																																																																																																																																																																				
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	児童数	3,125	3,125	3,091	3,092	3,440		1																																																																																																																																																																																																																																																																				
		生徒数	1,439	1,399	1,377	1,377	1,520		0																																																																																																																																																																																																																																																																				
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	給食提供日数/給食実施基準日数	100.5	102.1	102.1	101.6	100.0		-0.5																																																																																																																																																																																																																																																																				
		残菜率	13.2	12.3	12.3	12.3	12.0		-0.04																																																																																																																																																																																																																																																																				
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)								0																																																																																																																																																																																																																																																																				
									0																																																																																																																																																																																																																																																																				
(3)事務事業コストの推移																																																																																																																																																																																																																																																																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>平成25年度(決算)</th> <th>平成26年度(決算)</th> <th>平成27年度(決算)(A)</th> <th>平成28年度(決算見込み)(B)</th> <th>平成29年度(当初予算)</th> <th>目標年度(目標値)</th> <th>差額(B)-(A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">支出内訳</td> <td>正規職員従事人数</td> <td>人</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td>10,320</td> <td>10,320</td> <td>10,310</td> <td>10,310</td> <td>10,310</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>正規職員人件費計(C)</td> <td>千円</td> <td>51,600</td> <td>51,600</td> <td>51,550</td> <td>51,550</td> <td>51,550</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>再任用職員従事人数</td> <td>人</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td>4,800</td> <td>4,800</td> <td>3,200</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-3,200</td> </tr> <tr> <td>再任用職員人件費計(D)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>9,600</td> <td>6,400</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-6,400</td> </tr> <tr> <td>嘱託職員従事人数</td> <td>人</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td>時間</td> <td>9,000</td> <td>9,000</td> <td>10,500</td> <td>13,500</td> <td>13,500</td> <td>3,000</td> </tr> <tr> <td>嘱託職員人件費計(E)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>13,500</td> <td>15,750</td> <td>20,250</td> <td>20,250</td> <td>4,500</td> </tr> <tr> <td>人に係るコスト計(F)</td> <td>千円</td> <td>51,600</td> <td>74,700</td> <td>73,700</td> <td>71,800</td> <td>71,800</td> <td>-1,900</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">物に係るコスト</td> <td>物件費</td> <td>千円</td> <td>131,265</td> <td>131,260</td> <td>123,176</td> <td>121,408</td> <td>132,913</td> <td>-1,768</td> </tr> <tr> <td>うち委託料</td> <td>千円</td> <td>16,688</td> <td>17,064</td> <td>17,123</td> <td>17,225</td> <td>17,864</td> <td>102</td> </tr> <tr> <td>維持補修費</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>物に係るコスト計(G)</td> <td>千円</td> <td>131,265</td> <td>131,260</td> <td>123,176</td> <td>121,408</td> <td>132,913</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">移転支的コスト</td> <td>扶助費</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>補助費等</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>繰出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td>30,348</td> <td>2,602</td> <td>9,720</td> <td>10,314</td> <td>7,118</td> </tr> <tr> <td>移転支的コスト計(H)</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>30,348</td> <td>2,602</td> <td>9,720</td> <td>10,314</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>支出計(I)=(F)+(G)+(H)</td> <td>千円</td> <td>182,865</td> <td>236,308</td> <td>199,478</td> <td>202,928</td> <td>215,027</td> <td>0</td> <td>-3,668</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">収入内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>都支出金</td> <td>千円</td> <td>5,137</td> <td>23,028</td> <td>8,856</td> <td>12,243</td> <td>31,255</td> <td>3,387</td> </tr> <tr> <td>分担金及び負担金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>使用料及び手数料</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>繰入金</td> <td>千円</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> <td>4</td> <td>37</td> <td>53</td> <td></td> <td></td> <td>-53</td> </tr> <tr> <td>収入計(J)</td> <td>千円</td> <td>5,141</td> <td>23,065</td> <td>8,909</td> <td>12,243</td> <td>31,255</td> <td>0</td> <td>3,334</td> </tr> <tr> <td>収支差額(K)=(J)-(I)</td> <td>千円</td> <td>-177,724</td> <td>-213,243</td> <td>-190,569</td> <td>-190,685</td> <td>-183,772</td> <td>0</td> <td>7,002</td> </tr> <tr> <td>一般財源投入割合</td> <td>%</td> <td>97%</td> <td>90%</td> <td>96%</td> <td>94%</td> <td>85%</td> <td>#DIV/0!</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>												項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)	支出内訳	正規職員従事人数	人	11	11	10	10	10	0	延べ業務時間	時間	10,320	10,320	10,310	10,310	10,310	0	正規職員人件費計(C)	千円	51,600	51,600	51,550	51,550	51,550	0	再任用職員従事人数	人	3	3	2	0	0	0	延べ業務時間	時間	4,800	4,800	3,200	0	0	-3,200	再任用職員人件費計(D)	千円	0	9,600	6,400	0	0	-6,400	嘱託職員従事人数	人	6	6	7	9	9	0	延べ業務時間	時間	9,000	9,000	10,500	13,500	13,500	3,000	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	13,500	15,750	20,250	20,250	4,500	人に係るコスト計(F)	千円	51,600	74,700	73,700	71,800	71,800	-1,900	物に係るコスト	物件費	千円	131,265	131,260	123,176	121,408	132,913	-1,768	うち委託料	千円	16,688	17,064	17,123	17,225	17,864	102	維持補修費	千円						0	物に係るコスト計(G)	千円	131,265	131,260	123,176	121,408	132,913	0	移転支的コスト	扶助費	千円						0	補助費等	千円						0	繰出金	千円						0	その他	千円		30,348	2,602	9,720	10,314	7,118	移転支的コスト計(H)	千円	0	30,348	2,602	9,720	10,314	0	その他	千円							0	支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	182,865	236,308	199,478	202,928	215,027	0	-3,668	収入内訳	国庫支出金	千円						0	都支出金	千円	5,137	23,028	8,856	12,243	31,255	3,387	分担金及び負担金	千円						0	使用料及び手数料	千円						0	繰入金	千円						0	その他	千円	4	37	53			-53	収入計(J)	千円	5,141	23,065	8,909	12,243	31,255	0	3,334	収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-177,724	-213,243	-190,569	-190,685	-183,772	0	7,002	一般財源投入割合	%	97%	90%	96%	94%	85%	#DIV/0!	
項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)																																																																																																																																																																																																																																																																					
支出内訳	正規職員従事人数	人	11	11	10	10	10	0																																																																																																																																																																																																																																																																					
	延べ業務時間	時間	10,320	10,320	10,310	10,310	10,310	0																																																																																																																																																																																																																																																																					
	正規職員人件費計(C)	千円	51,600	51,600	51,550	51,550	51,550	0																																																																																																																																																																																																																																																																					
	再任用職員従事人数	人	3	3	2	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																					
	延べ業務時間	時間	4,800	4,800	3,200	0	0	-3,200																																																																																																																																																																																																																																																																					
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	9,600	6,400	0	0	-6,400																																																																																																																																																																																																																																																																					
	嘱託職員従事人数	人	6	6	7	9	9	0																																																																																																																																																																																																																																																																					
	延べ業務時間	時間	9,000	9,000	10,500	13,500	13,500	3,000																																																																																																																																																																																																																																																																					
	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	13,500	15,750	20,250	20,250	4,500																																																																																																																																																																																																																																																																					
	人に係るコスト計(F)	千円	51,600	74,700	73,700	71,800	71,800	-1,900																																																																																																																																																																																																																																																																					
物に係るコスト	物件費	千円	131,265	131,260	123,176	121,408	132,913	-1,768																																																																																																																																																																																																																																																																					
	うち委託料	千円	16,688	17,064	17,123	17,225	17,864	102																																																																																																																																																																																																																																																																					
	維持補修費	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																					
	物に係るコスト計(G)	千円	131,265	131,260	123,176	121,408	132,913	0																																																																																																																																																																																																																																																																					
移転支的コスト	扶助費	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																					
	補助費等	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																					
	繰出金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																					
	その他	千円		30,348	2,602	9,720	10,314	7,118																																																																																																																																																																																																																																																																					
移転支的コスト計(H)	千円	0	30,348	2,602	9,720	10,314	0																																																																																																																																																																																																																																																																						
その他	千円							0																																																																																																																																																																																																																																																																					
支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	182,865	236,308	199,478	202,928	215,027	0	-3,668																																																																																																																																																																																																																																																																					
収入内訳	国庫支出金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																					
	都支出金	千円	5,137	23,028	8,856	12,243	31,255	3,387																																																																																																																																																																																																																																																																					
	分担金及び負担金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																					
	使用料及び手数料	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																					
	繰入金	千円						0																																																																																																																																																																																																																																																																					
	その他	千円	4	37	53			-53																																																																																																																																																																																																																																																																					
	収入計(J)	千円	5,141	23,065	8,909	12,243	31,255	0	3,334																																																																																																																																																																																																																																																																				
収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-177,724	-213,243	-190,569	-190,685	-183,772	0	7,002																																																																																																																																																																																																																																																																					
一般財源投入割合	%	97%	90%	96%	94%	85%	#DIV/0!																																																																																																																																																																																																																																																																						

2 評価の部(CHECK) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価																	
公共関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?																
成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?																
廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?)																
類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?																
活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?	給食センターは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、市が設置しているため、本事業は市が行う事業である。しかし、施設の老朽化が進んでおり、現在地には建て替えが建築制限により不可能である。今後新たな給食センターが建設していく際に、その運営方法について検討する必要がある。																
事業費の削減余地・歳入の確保	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など) さらなる歳入を確保できないか?																
人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)																
受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか?受益者負担が公平・公正になっているか?																
事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?	現在の運営方式が望ましいかどうかの点については、今後新たな給食センター施設整備計画を策定するに当たり、運営形態について検討する必要がある。																
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)																	
(1)担当課評価者としての評価結果	(2)全体総括(振り返り、反省点)																
① 公共関与と妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	現在の給食センターは施設が老朽化しており、衛生面等でも問題点を抱えている。今後、給食センター施設整備基本計画を策定し、詳細な検討を進めていく。ただし、新たな給食センター用地が現在まだ確保されていない状況であり、現行の施設を当面は継続せざるを得ない状況に現在ある。施設の老朽化にともない、毎年度施設・設備の修繕等が続いており、予算支出が増大する原因となっている。																
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		削減	維持	増加	向上	○			維持			×	低下		×	×
	削減	維持	増加														
向上	○																
維持			×														
低下		×	×														
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策																	
児童生徒の保護者、議会、市民との合意形成。																	
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?																	
施設を更新し、新たな施設で安心・安全でおいしい給食を提供している状態																	

評価実施 平成 29 年度		事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)									
事務事業名	No. 4	物資調達事業									
	No. 2	2 子育て・教育									
	No. 5	基本施策5 学校教育の充実									
政策名	2 子育て・教育										
施策名	基本施策5 学校教育の充実										
所属部	教育委員会										
所属課	給食センター										
課長名	吉野勝治										
法令根拠	学校給食法 学校給食用物資納入登録業者選定委員会規程										
事業期間	単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 <input type="checkbox"/> ( 昭和43 年度 ~ 年度 )										
事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)											
<p>学校給食衛生管理の基準「食品の購入」に基づき給食用物資を選定・調達する事業。                  ①学校給食用物資納入登録業者選定委員会において、2年に1回、給食用物資納入業者の選定、登録を行う。(新規業者については随時)                  ②同委員会は年間11回開催され、ここで、月及び学期分の給食用物資を選定する。                  ③選定された物資について、各業者との契約書を作成し、この契約書に基づき、翌月分の物資を発注する。ただし、牛乳、地場野菜は別途契約、パン等は東京都学校給食会を通して購入している。                  ④納入物資の支払いは翌月払いとなる。</p>											
この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)											
昭和43年9月に小中学校7校(当時小学校5校、中学校2校)5,400食を対象に完全給食が実施されたため。											
裁量性の小さい理由・根拠											
法令等により事業の実施が義務付けられている事業											
1 現状把握の部(PPLAN) (DO)											
(1) 事務事業の目的と指標											
①手段:平成28年度の実績(平成28年度に行った主な活動を具体的に記載)											
学校給食用物資納入業者31業者 学校給食用物資納入登録業者選定委員会・地場野菜会議:年11回開催											
①手段:平成29年度の事業計画(平成29年度に計画している主な活動を具体的に記載)											
学校給食用物資納入登録業者選定委員会・地場野菜会議:年11回開催											
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等											
給食用物資											
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)											
学校給食衛生管理の基準に適合し、適正な物資の調達が可能となる。											
④結果:基本施策の目的や効果を高めるためのこの事業の貢献度											
給食用物資の適切な調達による学校給食事業の充実が義務教育の充実につながる。											
(2)各指標等の推移											
項目	名称	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)(A)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)		
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	学校給食用物資支払い業者件数	ア 件	353	317	312	334	341	22		
		学校給食用物資納入業者登録選定委員会、地場野菜会議	イ 回	11	11	11	11	11	0		
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	物資の分類数	ア 件	9	9	9	9	9	0		
			イ 件						0		
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	基準どおり調達できなかった件数	ア 件	0	0	0	0	0	0		
			イ 件						0		
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)		ア						0		
			イ						0		
(3)事務事業コストの推移											
項目	単位	平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(決算)(A)	平成28年度(決算見込み)(B)	平成29年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)			
支出内訳	人に係るコスト	正規職員従事人数	人	7	7	6	6	6	0		
		延べ業務時間	時間	4,150	4,150	4,100	4,100	4,100	0		
		正規職員人件費計(C)	千円	20,750	20,750	20,500	20,500	20,500	0		
		再任用職員従事人数	人						0		
		延べ業務時間	時間						0		
		再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	0		
		嘱託職員従事人数	人						0		
		延べ業務時間	時間						0		
		嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	0	0	0	0		
		人に係るコスト計(F)	千円	20,750	20,750	20,500	20,500	20,500	0		
物に係るコスト	物件費	千円	317	327	331	304	357	-27			
	うち委託料	千円						0			
	維持補修費	千円						0			
	物に係るコスト計(G)	千円	317	327	331	304	357	-27			
移転支的コスト	扶助費	千円						0			
	補助費等	千円						0			
	繰出金	千円						0			
	その他	千円						0			
移転支的コスト計(H)	千円	0	0	0	0	0	0				
その他	千円						0				
支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	21,067	21,077	20,831	20,804	20,857	0	-27			
収入内訳	国庫支出金	千円						0			
	都支出金	千円						0			
	分担金及び負担金	千円						0			
	使用料及び手数料	千円						0			
	繰入金	千円						0			
	その他	千円						0			
	収入計(J)	千円	0	0	0	0	0	0			
収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-21,067	-21,077	-20,831	-20,804	-20,857	0	27			
一般財源投入割合	%	100%	100%	100%	100%	100%	#DIV/0!				

2 評価の部(CHECK) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価																					
公共関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?																				
成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?																				
廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?)																				
類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?																				
活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?																					
特になし。																					
事業費の削減余地・歳入の確保	<input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など) さらに歳入を確保できないか?																				
人件費(延べ業務時間)の削減	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 現行の学校給食用物資納入登録業者選定委員会などで物資を選定する方式は、国立市の特色でもあり、透明性・公平性が確保されており、それにかかる正職員の業務時間は必要である。																				
受益機会・費用負担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか?受益者負担が公平・公正になっているか?																				
事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?																					
給食費収支との関係でコストを下げざるを得ない部分がある。																					
3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)																					
(1) 担当課評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																				
① 公共関与と妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	基準に適合し、適切な物資が調達されていると判断する。 ただし、給食費を平成17年度以降改定していないため、今後給食費改定の議論を進める必要がある。																				
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載	(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																				
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	向上				維持		○	×	低下		×	×
	コスト																				
	削減	維持	増加																		
向上																					
維持		○	×																		
低下		×	×																		
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策																					
物資納入登録業者選定委員会での入札方法を現状のままでもいいかの検討。																					
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?																					
現行の安心・安全でおいしい給食を維持できている時。また、見直しなどについては、学校給食そのものが廃止もしくは全面委託となれば、物資調達業務の必要はなくなる。																					